

K- 515

米沢市埋蔵文化財調査報告書 第18集

大浦

大浦A遺跡 発掘調査報告書
大浦C遺跡

奈良時代～平安時代の
集落及び官衙跡

1987

米沢市教育委員会

大浦

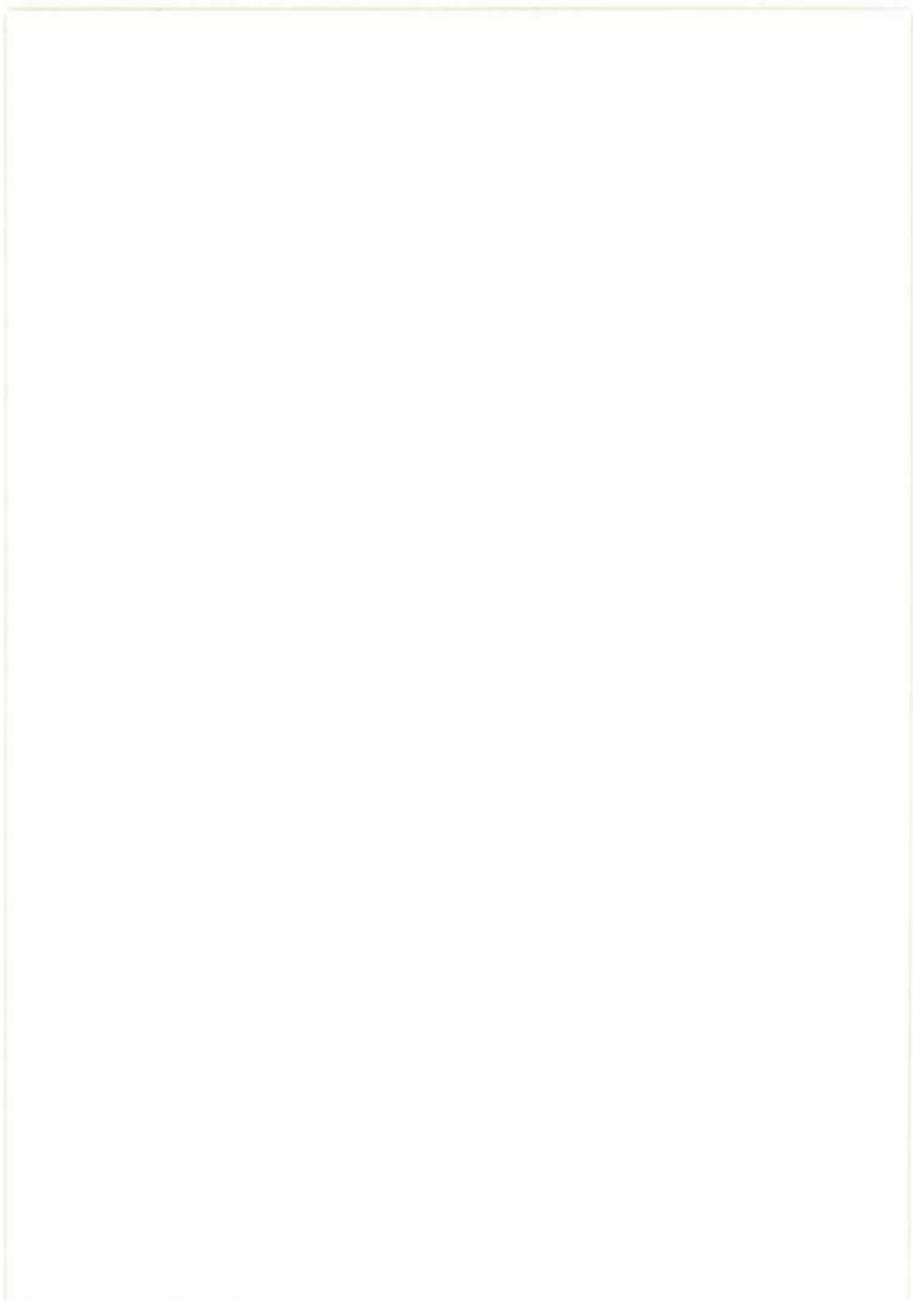
大浦A遺跡 発掘調査報告書 大浦C遺跡

—奈良時代～平安時代の—
集落及び官衙跡

1987

米沢市教育委員会

(表紙題字は米沢市教育委員会社会教育課長 安部敏夫による)



序 文

本報告書は昭和59年7月、中田町遠藤宅駐車場造成工事に伴なう大浦C遺跡と、昭和60年12月、米沢市都市計画課が進めている金池第二土地計画整理事業に伴なう大浦A遺跡の二次にわたる緊急発掘調査の成果をまとめたものです。

本遺跡は、芦付と大浦に広がるもので大浦A、B、Cの三地区に区分しています。こ^こは米沢市役所の北東約1.5kmにあって、南側を堀立川、東側を最上川（羽黒川）によ^{って}形成された河岸段丘であります。この遺跡の北東約1.5kmには笛原遺跡、東方約2kmに戸塚山古墳群があります。

昭和59年の大浦C遺跡調査では、限られた面積の中ではありましたが、奈良時代前半から後半にかけての大集落の溝跡と考えられ、木簡、布目瓦の発見によって、官衙の可能性を持つ遺跡と思われます。

昭和60年の大浦A遺跡調査では、検出された遺構から、奈良時代末から平安時代初期に属するものと見られ、遺跡の中心が県道の北側と東側に沿って集中しているらしく、住居跡等の明確なことは確認できなかったが、井戸跡1基が検出されました。

これらの調査で、これまで8世紀を中心とした集落構成が9世紀に入ってからも営まれていたものと推測できます。

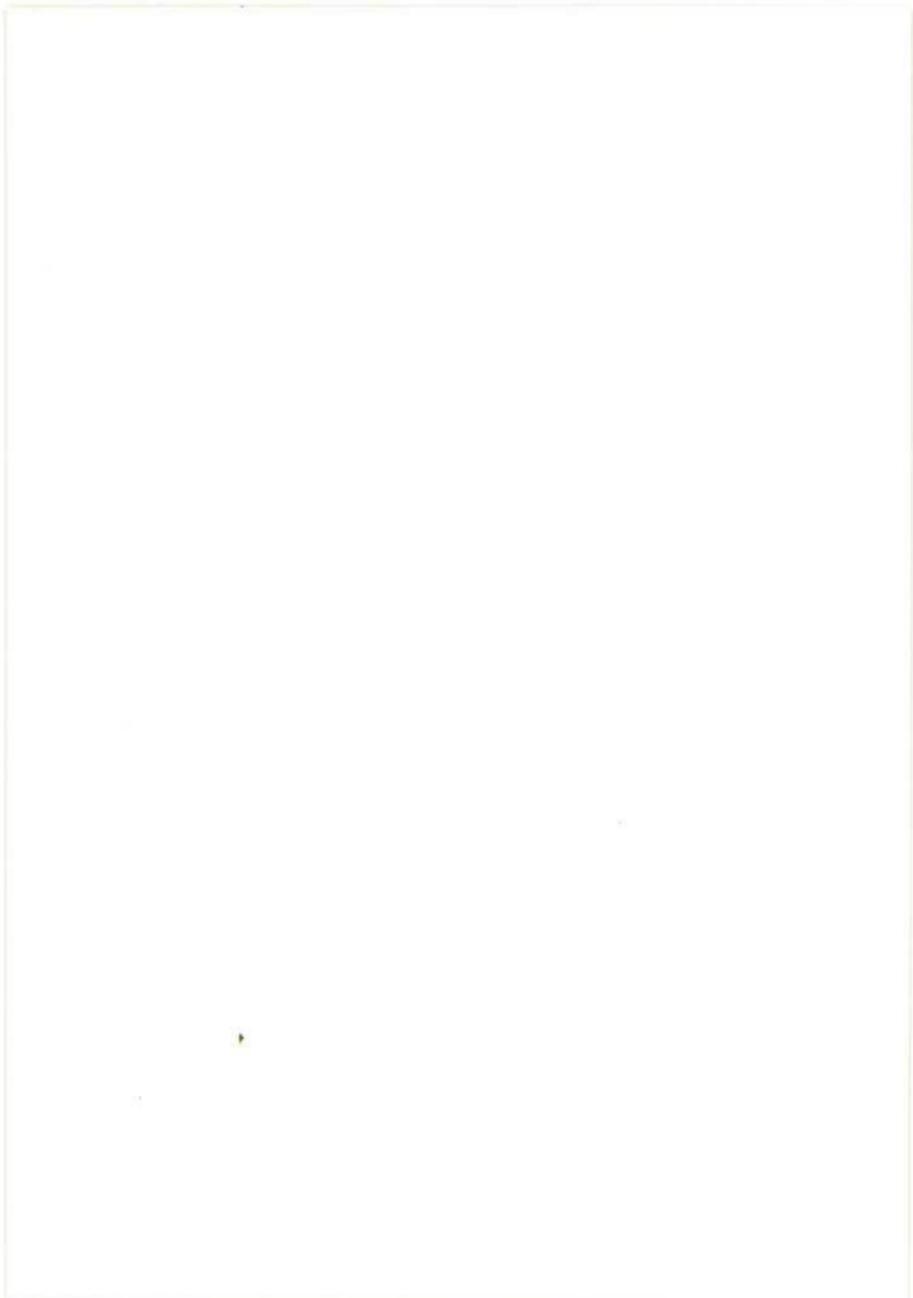
市教育委員会では、これらの貴重な資料を整理しながら、歴史と古代文化を探求し、豊かな住みよい郷土を築くため、埋蔵文化財の保護保存に努力するものであります。

二次にわたる調査にあたり、格別のご指導・ご協力を賜わりました文化庁、山形県教育委員会、地権者並びに地区の皆様、さらに本市建設部都市計画課に対し、心から感謝申しあげます。

昭和62年2月

米沢市教育委員会

教育長 北日二郎



例　　言

I 本報告書は遠藤庄四郎氏の駐車場造成工事に伴う大浦C遺跡、金池第2土地区画整理事業に伴う大浦A遺跡の二遺跡をまとめた埋蔵文化財緊急発掘調査報告書である。

II 発掘調査は米沢市教育委員会が主体となって、遠藤氏及び米沢市都市計画課との協議のうえ大浦C遺跡を昭和59年6月15日～同年7月2日、大浦A遺跡を昭和60年12月2日～同年12月19日までに実施したものである。

III 調査体制は下記の通りである。

◎大浦C遺跡

調査総括	黒田信介	調査総括	舟山文司
調査主任	菊地政信	調査担当	手塚 孝
調査副主任	橋爪 健	調査主任	菊地政信
調査補助員	赤木美智夫、小松佳子 堤佳代子	調査補助員	原 三郎、我妻徳枝、町田恵美子 作業員 我妻富芳、梅津久夫、我妻伊勢次
作業員	本田利雄 原 三郎 伊藤清美 我妻益男 佐藤弘則 我妻徳枝	作業員	藏田清二、青木武四郎、加藤正家 星 宮夫、鹿野浅吉、加藤輝参 高橋マサノ、縮みよ子、我妻とし子 手塚武雄、遠藤 栄、手塚一男 情野義宝、情野京子、星 啓三 佐藤峯雄、我妻二雄、中島正己
調査協力	遠藤庄四郎、星 宗男、堤 隆次	米沢市都市計画課	
調査指導	山形県教育厅文化課		
事務局	登坂 功、木村琢美、森谷幸彦 竹田雅之	平間重光、梅津幸保、竹田雅之 我妻重義、角屋由美子	

IV 採図の縮尺は遺構を60分の1、40分の1、付図、160分の1、土器類の実測図、拓影図を3分の1、2分の1、石器は1.5分の1、木器を4分の1、3分の1、1.5分の1とした。写真図版は完形土器については縮尺不同、土器片を2分の1とした。北は真北に統一した。

V 本書の作成は手塚 孝、菊地政信、橋爪 健が中心となり、梅津幸保、金子正廣が補佐し編集は手塚、梅津、責任校正は金子がその責務に当った。

本文目次

題字 安部敏夫（社会教育課長）

序 文	
例 言	
I 遺跡の概要	1
II 大浦C遺跡の発掘	1
(1) 大浦C遺跡の遺構	2
A. 溝状遺構	
B. その他の遺構	
(2) 大浦C遺跡の遺物	2
A. 繩文時代の遺物	
B. 奈良時代の遺物	
• 土師器	
• 須恵器	
• 瓦	
• 木 器	
(3) 大浦C遺跡のまとめ	4
III 大浦A遺跡の発掘	5
(1) 大浦A遺跡の遺構	5
A. 建物跡	
B. 井戸跡	
C. 溝状遺構	
D. 土 壤	
E. その他の遺構	
(2) 大浦A遺跡の遺物	7
A. 繩文時代の遺物	
B. 奈良・平安時代の遺物	
• 土師器	
• 須恵器	
• 木 器	
• 鉄 器	
(3) 大浦A遺跡のまとめ	10
IV 総 括	10

挿 図 目 次

第1図 大浦A・大浦C遺跡位置図	19
------------------------	----

第2図	大浦A・大浦C遺跡周辺地形図	20
第3図	大浦C遺跡グリット配図	21
第4図	大浦C遺跡遺構平面図(1)	22
第5図	大浦C遺跡遺構平面図(2)	23
第6図	大浦C遺跡遺構平面図(3)	24
第7図	大浦A遺跡グリット配図	25
第8図	大浦A遺跡遺構平面図(1)	26
第9図	大浦A遺跡遺構平面図(2)	27
第10図	大浦A遺跡遺構平面図(3)	28
第11図	大浦A遺跡遺構平面図(4)	29
第12図	大浦A遺跡遺構平面図(5)	30
第13図	大浦A遺跡遺構平面図(6)	31
第14図	大浦A遺跡遺構平面図(7)	32
第15図	大浦A遺跡遺構平面図(8)	33
第16図	大浦A・大浦C遺跡出土の遺物(1)	34
第17図	大浦A・大浦C遺跡出土の遺物(2)	35
第18図	大浦A・大浦C遺跡出土の遺物(3)	36
第19図	大浦A・大浦C遺跡出土の遺物(4)	37
第20図	大浦A・大浦C遺跡出土の遺物(5)	38
第21図	大浦A・大浦C遺跡出土の遺物(6)	39
第22図	大浦A・大浦C遺跡出土の遺物(7)	40
第23図	大浦A・大浦C遺跡出土の遺物(8)	41
第24図	大浦A・大浦C遺跡出土の遺物(9)	42
第25図	大浦A・大浦C遺跡出土の遺物(10)	43
第26図	大浦A・大浦C遺跡出土の遺物(11)	44
第27図	大浦A・大浦C遺跡出土の遺物(12)	45
第28図	大浦A・大浦C遺跡出土の遺物(13)	46
第29図	大浦A・大浦C遺跡出土の遺物(14)	47
第30図	大浦A・大浦C遺跡出土の遺物(15)	48
第31図	大浦A・大浦C遺跡出土の遺物(16)	49
第32図	大浦A・大浦C遺跡出土の遺物(17)	50
第33図	大浦A・大浦C遺跡出土の遺物(18)	51
第34図	大浦A・大浦C遺跡出土の遺物(19)	52
第35図	大浦A・大浦C遺跡出土の遺物(20)	53
第36図	大浦A・大浦C遺跡出土の遺物(21)	54
第37図	大浦A・大浦C遺跡出土の遺物(22)	55

図 版 目 次

- 第1図版 大浦C遺跡の発掘(1) 発掘全景、発掘状況
第2図版 大浦C遺跡の発掘(2) KY1, 2区セクション, KY1B区セクション
第3図版 大浦C遺跡の発掘(3) AZ1布目瓦出土状況, GN2木筒出土状況
第4図版 大浦C遺跡の発掘(4) GZ4木器出土状況, GZ5木器出土状況
第5図版 大浦A遺跡の発掘(1) 発掘全景、遺構全景
第6図版 大浦A遺跡の発掘(2) DN9井戸跡セクション, DN9井戸跡完掘状況
第7図版 大浦A・大浦C遺跡出土の遺物(1)
第8図版 大浦A・大浦C遺跡出土の遺物(2)
第9図版 大浦A・大浦C遺跡出土の遺物(3)
第10図版 大浦A・大浦C遺跡出土の遺物(4)
第11図版 大浦A・大浦C遺跡出土の遺物(5)
第12図版 大浦A・大浦C遺跡出土の遺物(6)
第13図版 大浦A・大浦C遺跡出土の遺物(7)
第14図版 大浦A・大浦C遺跡出土の遺物(8)
第15図版 大浦A・大浦C遺跡出土の遺物(9)
第16図版 大浦A・大浦C遺跡出土の遺物(10)
第17図版 大浦A・大浦C遺跡出土の遺物(11)
第18図版 大浦A・大浦C遺跡出土の遺物(12)
第19図版 大浦A・大浦C遺跡出土の遺物(13)
第20図版 大浦A・大浦C遺跡出土の遺物(14)
第21図版 大浦A・大浦C遺跡出土の遺物(15)
第22図版 大浦A・大浦C遺跡出土の遺物(16)
第23図版 大浦A・大浦C遺跡出土の遺物(17)
第24図版 大浦A・大浦C遺跡出土の遺物(18)
第25図版 大浦A・大浦C遺跡出土の遺物(19)
第26図版 大浦A・大浦C遺跡出土の遺物(20)
第27図版 大浦A・大浦C遺跡出土の遺物(21)
第28図版 大浦A・大浦C遺跡出土の遺物(22)
付図1 大浦C遺跡遺構全体図
付図2 大浦A遺跡遺構全体図

付 表 目 次

I 遺跡の概要

本遺跡は第1図で示す様に大浦A, B, C, の地域に分けられている。これは最初に確認した大浦C遺跡が昭和59年(1984)に調査を実施した結果、遺跡範囲が拡大することが判明したものであり、大浦A遺跡とした地域は字名が芦付であるが当初の大浦C遺跡の範囲に加わる事から命名し、昭和60年(1985)に調査をおこなった。大浦A, C遺跡の調査範囲は第2図にスクリントンで示した。なお本遺跡群は総面積約18,000m²を有すものと推測され大浦A, B, C遺跡は一括されるものと理解したい。

遺跡は米沢市役所北東約2kmに位置し、西を堀立川、南は松川(最上川)、東を羽黒川が流れ遺跡周辺で松川と堀立川が合流、さらに東側地点で羽黒川と合流する。合流地点北方左岸には昭和56年(1981)に調査した笹原遺跡が位置する。さらに東方約2kmには雄大な戸塚山がみわたせ山頂の全長54mの前方後円墳をはじめ196基の古墳群が現存する。また最近発見された窪田町館の寶領塚古墳(前方後方墳・1986年測量調査)、窪田町窪田の八幡塚古墳(未調査)が戸塚山古墳群と同じぐらいはなれて北東にある。

標高は大浦A遺跡で235m、大浦B遺跡で236m、大浦C遺跡が233mを計り西から東へ若干傾斜している。遺跡は松川によって形成された河岸段丘であり、河川との比高差は6mある。現在は米沢市街地への北側玄関口としてもっとも交通ラッシュが著しい。

II 大浦C遺跡の発掘

現況は削平され、駐車場造成中だったのをストップしてもらい調査を実施した遺跡である。理由は米沢市教育委員会が実施した昭和56年~57年の遺跡分布調査の際に遺物分布の範囲外と認識されていた事から上記の工事が開始されたのであった。しかし現場を偶然通りかかった埋蔵文化財調査員が遺構・遺物を確認すると共に、地主の遠藤庄四郎氏の理解と協力を得ることができ、さらに関係機関と協議を重ね昭和59年6月15日から同年7月2日、延べ17日間の日程で調査を開始し、削平された面積全体を調査区域と設定した。

調査は耕作土(30cm)及び黄褐色シルト質の地山(15cm)が削平されていた事もあって遺構の確認は簡単であった。そこで調査区に第3図のグリットを組み、KY1, KY2と命名した溝状遺構から掘り下げを開始する。この遺構は重複関係にあることが西側、現況面との境界セクションより確認できた。KY2の上面がだいぶ削平されていることから散乱する遺物の大部分はこの遺構出土と理解される。ちなみにKY2底面からは大量の須恵器、土師器片が検出された。なおKY2の東側はすでに全面が削平を受けてどこまで延びるのか把握が困難であった。KY2の精査を終了後KY1の掘り下げに着手、層位ごとに遺物を取り上げ調査を進行させ、調査区東側にあるKY3, KY4と平行し6月29日終了、30日、7月2日面作成作業を実施した。7月2日の午後から現地説明会を開き調査を完了する。調査面積は約1,600m²であった。

(1) 大浦C遺跡の遺構

今回の調査区から検出された遺構は溝状遺構4基、KY1~4、ピット23基、PY1~23がある。付図1に全体の配置図、第4~6図に出土遺物地点を図示したので参照願いたい。

A 溝状遺構

KY1は幅が1.2~1.5m、コーナ部で2.5mの最大幅を有し、深さもコーナ部が最深で1.5m、平均72cmを計り、西から東へ水が流れている痕跡を呈す。層位は自然堆積でありI層からVII層に分けられ、II、III、V、VI、VII層及び最下層面に遺物を含み、IV層より、下面は水分を含む土質であった。幅が一定していることや急カーブを呈す事から人工的に構築されたものである。

KY2はKY1が廃絶した後に構築されたものであり、KY1に沿って東西に延びると推測されよう。確認した幅は2.2m、深さは20cmを有す。埋土には礫や焼土が認められた。KY3とKY4は埋土が暗赤褐色で遺物も若干しか認められずKY1、2とは年代差を感じられる遺構である。第6図138の遺物は混入したものと思われる。なおKY4はE区でKY1と重複して南側に延びる。性格については全容が把握出来ないことから不明と言わざるをえない。

B その他の遺構

溝状遺構の北側に集中してPY1~23が点在する。掘立建物跡や堅穴式住居跡の柱穴と考えられるが関連性は見いだせなかった。すべて円形プランを有し小規模で浅い。

(2) 大浦C遺跡出土の遺物

本遺跡から検出された遺物はすべてKY1、KY3となる溝状遺構内出土による。基本的には溝状遺構が機能していた時期に廃棄された遺物・第V~第VII層と溝が廃絶した後に廃棄された遺物第I・第II層に分れる。そして両者の中間層第三層、第IV層は無遺物層となっており、明らかに年代的、時間的な空間を示している。後者の第I、II層からは米沢市内では初の布目瓦2点と土師器、須恵器片500点余が検出しているにすぎないが、前者の溝底面からは土師器壊の完形品1点と木簡1点を含む450点の遺物が認められた。

A 繁文時代の遺物〔第35図18〕

KY1の埋土に混入して認められたもので、横剥のフレーク1点がある。石材は硬質頁岩製であり、表面には一部自然面を残すことから石核を調整する際の一次的な剥片と考えられる。

B 泰良時代の遺物

2枚の文化層からは296点の遺物が検出しており、上層となる第I、II層を第1文化層、溝底面の第V、VI層を仮に第2文化層と大別すれば、第1文化層内には土師器、須恵器片を中心とする。いずれも破片が大半を占め、ことに土師器類は磨滅が著しく、図を作成できるものはなかった。第2文化層も同じ様な状況であり、破片類が圧倒的に多い。ここでは代表的な遺物を土師器、須恵器、瓦、木器と区分し説明を加えることにする。

・土師器 (第16図1・8~10)

内黒を有する土師器壺1点と木葉痕を呈する土師器甕底部2点、回転糸切り、同ヘラケズリ調整をもつ内黒土師器壺底部の3点が図化されたにすぎない。1の壺は底部付近に一条の沈線を配し、有段をもつもので、外面は横ナデf²、底面をヘラケズリe³をなす。内部調整はヘラミガキを主体に横位から斜位a²・a³を上半に用い、下半から底面にかけては縦位のヘラミガキa¹を丹念に施している。八世紀中葉から同前半代に位置するもので、筑原のⅠ期に相当する。

・須恵器 (図2~6・11・133・136~152)

須恵器の變形土器を中心には環と蓋を若干含む。壺はすべて回転ヘラ切りの底部切り離しを有するもので、2と5は川西町擅山古窯跡等でみられる稜塊高台壺と考えられる。3、4も高台壺であるが全体的に器壁が肉厚であり、木和田窯跡出土壺類に共通する特徴をもつ。6は口唇部が尖状を示し、底部にかけ急速に肥厚する浅壺であり、他に類例をみない。この様に壺類は全体的に古い要素を呈しており、筑原Ⅰ期のグループに併行するものであろう。

甕類はすべて破片によるものが多く、形態を明確にするものは含まれていない。後述する大浦A遺跡も同様であり、ここでは調整を主に分類しよう。まず、外面調整は叩目を全面に施すものが基本となる。内面調整は当て痕、もしくは押え目と呼ばれる内面調整を有するものが八割を示し、他にカキ目やヘラ調整、ナデが含む。前者の叩目は大浦A、Cも含めると次の7グループを選出することができた。

第1のグループは板目状の叩き目を有するもので、叩き目間が3mm以上をなし、浅い調整をもつものを一括し、板目状叩き目B¹とした。

第2のグループもB¹と同じであるが、叩き目が深いものをあえて区分し、板目状叩き目B²と分類する。

第3のグループは板目状の叩き目が3mm以内を有し、浅い調整をもつものを板目状叩き目B³とした。

第4のグループはB³と同じであるが、叩き目が深いものを板目状叩き目B⁴とした。

第5のグループは細線状叩き目を有するものを一括するもので、細線状叩き目B⁵とする。

第6のグループは撚糸文状の叩き目を有するものをまとめて撚糸状叩き目B⁶とする。

第7のグループは板目状の叩き目を格子目状に施すもので格子目状叩き目B⁷とした。

後者の押え目は繩文原体や布、小礫等を当て痕に用いたものが多く、押え目の痕跡から次の7類に分類した。

第1のグループとしては繩等を円形状にまるめて当て痕に用いたもので、俗に流水波文と呼ばれる仲間に属する。同心円押え目A¹とした。

第2のグループも上記のA¹と基本的に同じであるが、半部位を用いて調整するもので、半同心

円押え目 A²とする。

第3のグループは同心円を呈する当て痕工具の3分の1程度を用いて「カッコ」状に行うものであり、カッコ状押え目 A³とした。

第4のグループは繩等を線状（多条帶）に配するもので、線状押て痕 A⁴とする。第5のグループは A³がゆるんだ様な不整方向を有するもので、不整押え目 A⁵とした。

第6のグループは板目状の当て痕を有するもので、板目状押え目 A⁶とする。

第7のグループは小円礫を当て痕とするもので、円礫押え目 A⁷とする。

さて、大浦C遺跡出土の甕片を当てはめると外側調整となる叩き目はB²を有するものが2点、B³-1点、B⁴-9点、B⁵-2、B⁶-2点、B⁷-1と板目状叩き目のB⁴が圧倒的に多く、他は平均的な特徴がみられる。また内側調整となる押え目は繩目をもつA³が12点と大半を示し、次いでA⁷3点、A²-1点、A⁶-1となり、A¹、A⁴、A⁵は認められなかった。

その他に須恵器としては蓋が1点検出されている。肉厚で、上端を回転ヘラケズリ調整を施してあり、胎土に多量の石英砂を含んでいる。

・瓦（図134・135）

KY1の上面から2点認められている。両者とも破損しており、134に関しては瓦の上面と側面部が著しく磨滅しており、砥石等に二次的に使用したいものと考えられる。表面は擦糸、内面は布目が明瞭に残る。瓦と同層位（Ⅱ層）から出土した土師器、須恵器片の特徴は笛原遺跡のⅡ期もしくはⅢ期に相当するものが含まれていることから八世紀の後半から末頃の年代が与えられるであろう。

・木器（図193・199～203）

KY1の底面より木筒1点と板状木製品5点が検出された。193の木筒は上部に切り込みを加えた032型木筒に分類され、わずかに掘痕を残すが、解説することは困難であった。

板状木製品は角材状を有するもの199・200・203と板状を呈し、先端部を尖状に削っているもの201・202とに分れる。先の角材状をなす3点は溝底に横倒した状況で検出されたものであり、若干の削り痕跡を残すものの使用目的は不明である。後者は溝の側面に直立しており、矢板的なものと考える。

（3）大浦C遺跡のまとめ

駐車場造成のために地山近くまで削平されていたことと、遺跡最北端と言う限定された範囲内の調査であるため、明確な遺構を検出することはできなかった。しかし、KY1の上部からは布目瓦2点、下部からは木筒1点と遺跡の性格を検討する上で貴重な資料を得たものと考えられる。年代も八世紀中葉から同末葉と笛原遺跡や上浅川遺跡等と共に通する特徴を持ち、転用した瓦とは言っても、集落跡内からの発見はこれまでにはなく注目されよう。

III 大浦A遺跡の発掘

本地域が米沢市都市計画課が進めている、金池第二土地区画整理事業に係わることが判明し、緊急発掘調査として昭和60年12月2日より開始した。調査に先だって、小雪が舞う同年11月25日に調査範囲を選定する試掘調査を実施する。その結果第2図で示した大浦A遺跡調査区東側の微高地地点は近年の土地利用によってすでに破壊をうけていることから、西側水田の遺物が集中する範囲（斜線部分）を今回の調査区に選定した。整理事業対象区域は県道米沢、高畠線南側の河岸段上標高235m 地域で西側は水田、東側は段丘が最も県道に接近する箇所までである。

調査は重機による表土剥離から開始、表土は約20~30cmと比較的浅く2日間で終了、次に真北を基準線として第7図のグリットを設定、遺物取り上げは2m×2mでおこない精査は8m×8mの範囲で進めた。そして東北地点で当初は竪穴式住居跡と推測したプランを確認した。しかし掘り下げの結果、カマド、柱穴が検出されなかった。発堀作業は12月10日の雪の日以外は天候に恵まれ、さらに関係機関の協力もあって人材を加わることから順調に進行し、12月13日にはタワーを設営し遺構全体の写真撮影を実施する。その後、遺物包含層（付図2の実線で囲んだ範囲）を掘り下げ、土壤3基、ピット6基、不明遺構1基を確認した。12月16、17日はセクション図、遺構実測図作成、DN9（井戸跡）写真撮影その後完掘、遺物取り上げ、12月18日で調査を終了、12月19日午後から現地説明会をおこなった。調査日数15日間、精査面積約1,000m²である。

（1）大浦A遺跡の遺構

調査区からは柱穴（TY）5基、井戸跡（DN）1基、溝状遺構10基、土壤（DY）15基、ピット（PY）44基、池跡（NN）1基、不明遺構4基が検出された。これらの遺構群は井戸跡をのぞき、埋土がI～II層といづれも浅い特徴を有す。年代的には出土遺物から8世紀末から9世紀初頭に位置する遺構群が大半を占める。以下、各遺構の説明に入るが、出土遺物等については第8図～15図、遺構配置は付図2を参照願いたい。

A 建物跡〔TY20, 31～33, 79, 第15図〕

方形の掘り方を有すTY79, 20が認められ、調査区北側に延びると推測されるが今回の調査では1間しか確認出来なかった。掘立建物を構成する柱穴と理解される。第15図に示したTY31～33は円形を有す平面形状でありTY31, 32は隣接し、TY33は79, 20と隣接する。これも間通性は見い出せなかった。以上の様に今回の調査では建物跡は1棟も確認されなかった。

B 井戸跡〔DN9, 第11図〕

地山を1辺1.5mの正方形状に掘り込んで構築した井戸であり、下場は1.05m、深さは96cmを計る。プラン確認面には礫が集石し、凝灰岩、安山岩が主体で若干焼成面も有す礫も混在していた。埋土は自然堆積状況を呈しVI枚に区分できる。I層は暗オリーブ褐色微砂質土、II層は明褐色微砂質土、III層は灰褐色粘質土、V層は極暗褐色粘質土で凝灰岩の少破片礫を含む、VI層は黒褐色

粘質土で縦位の堆積状況を示す。内部施設としては、丸木をくりぬいて製作したと想定できる井戸枠が底面より出土している。井戸枠内には平坦面を有す河原石を円形状に配す。底面からは水が湧きでていた。井戸の上場周辺に認められるピット群は井戸の外部施設を構成していた柱穴と考えられるがその配置関係については関連性はなく、屋根等は存在しないものと理解したい。

C 溝状遺構 [K Y 5, 6, 10, 11, 16, 17, 22, 74, 75, 77, 第9, 10, 13図]

K Y 10, 11は一定の幅を保って東西に延びD Y 12, K Y 22を切って構築されている。深さはK Y 11が深く40cm前後で、K Y 10が30cm前後、断面形態は「U」字形状を呈し、東方に近づくに従って浅くなる傾向を有す。埋土は耕作土が混入しており、遺物は須恵器片、土師器片、第36図19の磨製石斧、第35図19の銅製キセル吸口が出土している。配置状況から道路の両端に掘られた排水溝と理解される。年代は出土遺物や堆土、D Y 12等の関係から近世と考えられよう。

K Y 5は幅が最大で1m、最小で70cmを計り、深さは20cm前後である。底面に小砾を大量に含み、溝の縁辺が水の流れによって削り取られた痕跡を有す。K Y 16, 22, 74, 75を切って構築している。遺物は第37図195の鉄剣が出土しており、形態から近世の遺物である。溝跡の性格は建物に付随する水路と推測され調査区外に延びている。鉄剣と溝の関係は溝の全容が解明できなかったことより不明と言わざるをえない。K Y 10, 11よりは下がる年代が想定される。

K Y 16, 74, 75は重複し、16→74→75の順で構築されている。これらの溝跡は多量の遺物を含み、今回の調査で出土した遺構内出土遺物の大半を占める。この溝跡を境として、遺物、遺構等が北側に分布するのが注意され、集落に関連するものと理解されよう。K Y 22は幅が狭く断面形態も「V」字型を呈し、深さは北側で30cm前後、南側に来るに従って浅くなり10cm前後である。遺物は検出されなかった。本遺跡からは縄文時代の遺物も検出されていることから、縄文時代の遺構とも考えられるが明確には言えない。

D 土壙 [D Y 2~4, 12~15, 23, 25~29, 46, 80, 第8, 9, 11, 13図]

西南のD Y 25~27は不定形状を呈す平面形状を有し、埋土状況から風到木塙である。遺物は少量含む。井戸跡東側に位置するD Y 13~15は浅いレンズ状を呈し遺物を含む。井戸跡と関連する土塙と推測したい。D Y 2, 3, 12, 28, 29は長円形状を有し、特にD Y 28, 29は多量の遺物を含む事から土器捨場の要素を持つ。D Y 23, 4は耕作土が多量に混入しており、近世の遺構だ。

E その他の遺構 [F Y 1, 52, 43, 8, NN 7, 第8, 15図]

池跡としたNN 7は調査区内で一部分完掘した。底面に堆積した多量の砂を有し、排水路の役割を有すK Y 77が南にある。不明遺構としたF Y 1は不整の長円形状を呈す竪穴式住居跡で4点の完形須恵器坏、「年」と書かれた墨書き土器2点が出土している。祭祀遺構の要素を有す。F Y 52もNN 7同様一部分だけ完掘している。遺物を若干含むが竪穴式住居跡とは認められなかった。F Y 8は円形状に掘り込んで粘土を壁面片側に貼付した特異な形態を有す。

(2) 大浦A遺跡出土の遺物

本遺跡から検出された遺物は約1,000点で、遺構及び、その周辺から出土した遺物（軸を有するもの）400点、遺構外のグリット、トレンチ内が582点ある。年代的には奈良、平安期に属するものが970点と大半を占め、他に縄文時代の土器石器が5点、近世の陶磁器類が26点となる。

A 縄文時代の遺物 [図187~190, 192]

土器は192の1点がK Y11東端部周辺から出土している。深鉢形土器の調部破片で、 $R \left\{ \frac{\ell}{\ell} \right\}$ を横位に転回している。胎土の觀察から縄文時代後期の所産と言えよう。

石器は187の石鎌、188のスクレーパー、189の石箒、192の磨製石斧、他に二次調整のない剝片が3点ある。これらの石器は奈良、平安、近世の各時代の遺構に混入した痕跡を呈す出土状況であった。年代は磨製石斧の形態觀察より縄文後期であり土器と同時期である事から他の石器類もこの時期に位置づけたい。188、192は使用痕が認められる。189は一次剝離面と二次調整剝離面には時間差があり、再調整を施した石器である。187は基部の觀察から未完成品と考えたい。

B 奈良・平安時代の遺物 [図12~132, 153~183]

今回の調査区が水田と言ふこともあって、遺物ごとに土師器の大部分は著しい磨滅を受けており、実測図、拓影図等の図化が可能だったのはわずか152点となる。全体的な遺物の分布は北東部、つまり道路側に集中し、より北東側が遺跡の中心部と考えられる。遺物の大半は土師器、須恵器類がほとんどで、他に木器、鉄製品をわずかに含んでいる。

・土師器 [図12~27]

壺類と變形土器の二者がある。先の壺類はすべて内黒を有するもので、器形から6類に細別される。a類 - 口径、底径が広く、底部から口縁部にかけて直立気味に立ち上るもの12。b類 - 底部が小さく、胴部が丸味を有しながら立ち上るもの14。c類 - 高台を有するもので、須恵器の棱塊に近い器形を有するもの15。d類 - 底部からの立ち上りが45°位の斜行を呈し、器壁が肉厚で内面の上端にわずかな稜を有するもの13。e類 - DN 9の井戸底面より検出された高台壺内黒土師器である。回転糸切り離し後にわずかな高台を付けている。器形は斜位に外曲して立ち上り、口縁部がゆるやかに外反する長高壺で、内面はヘラミガキ a・a・aを丹念に施した後に底部から胴辺にかけヘラ調整C¹を放射状に加えている23。f類 - 底部が比較的大きく、外反気味に立ち上るのが特徴で、底辺部に手持ちヘラケズリ調整をもつ。内面は横位から斜位にヘラミガキ a・aを配する。その他に底部片13点があり、14~21、24、25はヘラケズリ調整を切り離し後に加えたもので、16、21はヘラ切り、15・17・18・20・21・24・25は糸切り後に回転ヘラケズリ調整を加えている。19は回転ヘラ切り無調整であり土師器としては例が少ない。

變形土器28は頭部に一条の凹線を配した短形の甕であり、むしろ器形的には鉢形土器と言うべきなのであろう。器形は筒形の胴部からゆるやかに口縁が外反する特徴をもち、外面、内面とも

ハケ目を用いて調整を施し、後に口縁部付近をナデを加えている。

・赤焼土器〔図29・30〕

2点認められた。29は短高の环で、胴部が丸味を有し、口縁部で急速に外反する。30は口径が16.6cmを測る高台环であり、赤焼を有する环の仲間としてはめずらしい。両者とも明瞭にロクロ目を残している。

・須恵器〔図31～127・129・131・132・153～183〕

図化した113点を分類すると环類・蓋類・壺類の三つに大別され、これらをⅠ～Ⅲ群土器としてさらに細分、説明を加えたい。

Ⅰ群土器〔図31～116〕

环類を一括した。底部の切り離し技法からヘラ切りを主にするものをa類、糸切りを主にするものをb類とすると、a類はa¹～a⁴の4類、b類はb¹～b⁶類の6類に器形的な特徴から細分される。

a¹類 - 底部から胴部が丸味を呈し、口縁部に向うもの32。

a²類 - 底径が広く、約45°の角度で口縁部に斜行するもの33・34の2点がある。

a³類 - 先のa²類に近いが、底部から立ち上る角度が強く、器壁が肉厚である。35の1点がある。

a⁴類 - 下胴部から折接して口縁部が開き、逆に底辺から90°の角度で外反する高台を伴なった高环であり、いわゆる凌塊に近い特徴を有している。

b¹類 - 底部上端から胴部にかけてふくらみを有し、そのまま口縁部に立ち上がる环類であり、器壁全体が厚い特質をなす。この仲間には水引ロクロ成形痕の顕著な54・55・59と口径が15cm前後と大きめの61・65の5点が認められている。

b²類 - 胴部までの立ち上りはb¹類と同様であるが、口縁部付近でわずかに外反することで区分でき、器壁もうすく、ロクロ成形痕も内外ともに明瞭となる。56・57・58・62・68の5点が検出している。

b³類 - 底部から口縁部にかけて、斜位に立ち上るもので、水引きロクロ成形痕が著しい。DN9底面から検出された52の他に60・66・67の3点がある。

b⁴類 - 形態的にはB¹に類似する。ただし、器高が高く、器壁が胴部から口唇部にかけずばまる特徴は明らかに類別される。63の1点がある。

b⁵類 - 高台环で、全体的にb³類に近い。70・71の2点がある。

b⁶類 - 口縁部が急速に外反し、器高が低い高台环を一括した。72と73の2点が認められた。

その他に环類とみられる底部片が72点あり、底部切り離し技法から回転ヘラ切り、同ヘラケズリ調整を有するもの37～41・44・46の7点、回転ヘラ切り無調整を有するもの43・45・47～51・53の8点、回転糸切り、同ヘラケズリ調整を有するもの42の1点、静止糸切りを有するもの74の

1点、回転糸切り無調整を有するもの75~116の42点となる。

II群土器 [図117~127・130]

蓋類を一括した。12点を図化したが、すべて破片が多く、詳しい吟味はさけるが、口縁部から口唇部の特徴とツマミの形態から宝珠状のツマミを有するもの118・117、高台状のツマミを有するもの112、ツマミの中央部が光状を示し、なお高台状の縁を有するもの123・129、それに口縁部ではゆるやかに外反した口縁部が急速に口唇部に内曲し、「く」字状を有するもの120~122、口唇部の返しが弱く、丸味を有するもの124~126、口縁部から口唇部の返しが直角を有するもの127などである。

III群土器 [図31・131・132・153~183]

壺形や壺形土器の破片を一括した。図化したのは33点あり、大半は壺形土器となる。明らかに壺に分類されるのは31・131の2点しかない。従ってここでは壺形土器を内外面の調整を主に述べてみる。先の大浦C遺跡の頃で細分した叩き目、當て痕となる押え目を当てはめると、叩き目はB¹が2点、B²・9点、B³・7点、B⁴・4点、B⁵・1点、B⁷・1点となり、押え目はA¹・3点、A²~A³が4点、A⁵とA⁶が2点、A⁷を有するのが7点となる。すると前者の外面調査となる叩き目はB²とB³が圧倒的に多く、次いでB⁴となる。後者の押え目はA⁷を筆頭にA²~A⁴が続き、大浦C遺跡とは異なる傾向がみられた。

・墨書き土器 [図33、34、52]

FY1から2点、DN9の底面から1点の3点が検出され、いずれも須恵器底部による。DN9出土の52は墨痕がうすく判読できないが、FY1の33、34は「年」と理解される。

・木器 [図184、185、196~198]

DN9の底面より検出された。円を描く様に5枚の板片となって配されている。板片はすべて円弧状を呈し、かつては筒状を示していたと考えられる。これらは井戸の「ワク」として埋設されたものであり、DN9の断面から想定すると直径45cm、長さ90cmの丸太を筒状、もしくは割竹型にくり抜いて設営したと考えられる。

C 近世の遺物

・陶磁器類

近世頃の道路跡と推測されるKY10・KY11の溝内とその上面より26点の陶磁器片が検出されている。器種的には碗と皿類が大部分で、白磁、染付を有する伊万里系が主となる。時期的には17世紀末頃から19世紀中頃のものとみられる。

・鉄器 [図195]

KY5の埋土から出土した鉄剣である。当初は奈良時代の所産と考えていたが、形態的にみると近世頃の日本刀とみるのが妥当と言える。先端部は失なわれ、現長23cm程度しか残っていない

が刀の直行から考えると短刀の可能性が強い。

(3) 大浦A遺跡のまとめ

今回の調査で検出された遺構・遺物の分布状況からみると、大浦A遺跡の中心部は現在の道路の北東部に位置するものと推測される。遺構全体では溝状遺構、土壙、井戸跡、柱穴群からなっており、先の溝跡としては、K Y10、K Y11の両者が、時代の道路に係わりを有する他、南北のK Y22と東西のK Y74は集落跡の一端を区画する施設と推測される。次の土壙としては大きさや深さなどまちまちであり、性格的には不明と言わざるを得ない。井戸跡は米沢で初の発見となるものであり、丸太をくり抜いた井戸枠を用いたものであり、県内では酒田市手藏田2遺跡、手藏田12遺跡、同生石4遺跡、同南興野遺跡とすべて酒田市から検出されている。

最後の柱穴は49基を数えるが、建物としての存在を確認するまでは至らなかった。土器の分析では主に須恵器環を例にとると、a³類、a³類は笠原遺跡のA群12類(Ⅱ期)、b¹類、b²類はA群14類(Ⅲ期)、b³類がA群17類(Ⅳ期)、b⁵類がA群20類、b⁶類がA群9類(Ⅳ~V期)とそれぞれ類似しており、中心的な年代も笠原遺跡と同様にⅡ~Ⅳ期に集中する。このことから本遺跡は大浦C遺跡をも含め、笠原Ⅰ期~Ⅳ期の4時期、もしくはⅤ期を加えた5時期に亘っており、笠原遺跡とは同時期の八世紀中葉から九世紀の後半頃にかけて集落を構成していたものと考えられる。

IV 総括

堀立川、羽黒川、松川の3河川が合流する大浦周辺は河川の影響で著しく発達した河岸段丘を形成している。その発達した段丘上には西側から大浦A、大浦B、大浦C遺跡と3地点の遺跡を確認していたが、今回の発掘調査で東西800m、南北300mにも及ぶ大遺跡であることが判明した。先の大浦C遺跡の調査では遺跡の東端部を、後の大浦A遺跡の調査では西端部を発掘したことが遺跡面積を明確にするとともに、本遺跡の中心部をいわゆる大浦B遺跡に求める材料となったのである。大浦C遺跡発見の布目瓦や木簡、大浦A遺跡出土の墨書き土器、井戸跡、確実に掘立建物の存在を意味する柱穴等は、約24万m²をなす大浦遺跡を集落跡から官衙の可能性を強くする方向へと考えざるを得ない。

昭和56年に発掘調査を実施した笠原遺跡からは多量の土器とともに木簡3点、円面砥、墨書き土器などが発見され、ことに墨書き土器の中には舟曾と書れた内容のものが大半を占めることや舟の権、6表分の炭化米から我々は八世紀中葉~同末頃の広瀬郷に開港する舟付場と推測し、笠原遺跡付近のいすれかに「広瀬郷」の中心部が存在するだろうと考えてきた。まさに大浦遺跡はその可能性を示唆する。遠い過去の文化遺産が現実の形で現われた時、変な先入観にこだわらず、地形や、歴史的背景、出土遺物を丹念に分析することが、眞実の姿を引き出すものであろう。

※手塚 孝編(1981)『笠原』『米沢市埋蔵文化財調査報告書』第7集 まんぎり会

第1表 大瀬A・大瀬C遺跡出土土器・須恵器形態分類表

通しNo.	通称No.	出土地区	層位	口径	高径	底径	外面調整	内面調整	底盤	底盤切妻	a点	b点	c点	計	計測値	遺物品名	遺物登録No.
1	481	KY1-F	表様	16.5	4.2	10.1	f ^o	a ² +a ³ +a ¹	a ³	A	53.9 ⁷	13.4 ⁸	32.7 ⁹	30.6	53.14:33	土師器内黒口环	
2						9.1	ロクロア	ロクロア	ロクロア	B	52.3 ⁶	17.4 ⁴	30.6 ⁵	29.6	52.17:31	須恵器高台环	
3	482	KY1-C		15.5	5.2	9.1	ロクロア	ロクロア	ロクロア	B						須恵器高台环	
4	421	KY1-D	V			10	ロクロア+b	ロクロア	ロクロア	B						須恵器高台环	
5	19	KY1-A	II			10.5	ロクロア	ロクロア	ロクロア	A						須恵器高台环	
6	300	KY1-F	V	13.1	3.0	10.3	ロクロb	ロクロb	ロクロb		49.4 ⁸	11.7 ⁶	39.6 ¹	26.4	50.11:39	須恵器b	
7		表様				22.3	ロクロb+q	ロクロb	ロクロb							土師器雙耳部	
8	434	KY1-B	V			8			H							土師器選逐部	
9	388	KY1	V			7.8			H							土師器選逐部	
10	323	KY1	V			7.8			E							土師器選逐部	
11	483	KY1-E	V			7.5			D							須恵器石縫部	
12	8					15.1	4.1	ロクロa+q								土師器内黒口环	
13	296	DN9	II	13.0	4	6.8	ロクロa	a ² +a ³	D							土師器内黒口环	
14	297	KY16				5.7	マツツ不明		E							土師器内黒口环	AZ34
15	298	DY13				8.6			E							土師器内黒口环	AZ11
16	301	DY12				6.8			B							土師器内黒口环	AZ20
17	300	K74-B				7.2			E							土師器内黒口环	AZ28
18	302	K74-C				8.8			E							土師器内黒口环	AZ13
19	299	GH8-20				7.4			A							土師器内黒口环	
20	4					9.5			E							土師器内黒口环	
21	303	DY15				8.8			B							土師器内黒口环	AZ19
22	304	KY74				4.2	ロクロa+e ²	a ² +a ³	D	55.7 ⁶	16.1 ⁵	28.7 ⁷	26.0	56.16:28	土師器内黒口环		
23	305	DN9				6.3	ロクロc+q	a ³ +a ² +a ¹ +c ¹	D	52.8 ⁶	24.4 ⁵	22.4 ⁶	27.4	53.24:23	土師器内黒口环	AZ29	

通し番号	測量地名	出土地区	層位	口径	高径	底径	外側調整	内側調整	底板	切端	a点	b点	c点	計測量	遺物品名	遺物番号
24	48	黄採			7.1				E						土師器内側不延部	
25	307	G21-19			6.8				D						土師器内側不延部	
26	308	G21-18			7.1				H	41.78	32.68	25.68	42.6		土師器内側不延部	
27	306	G16-22		17.8	13.9	10.9	$d^2 + d^2 + r^2$	$r^2 + d^2 + d^2$	D						土師器内側不延部	
28	308	G21-18	II	12.8	3.3	6.3	ロクロa	ロクロa	D	57.14	48.78	28.18	22.4		土師器内側不延部	
29	309	G20-15	II	16.6	7.2	8.5	ロクロb	ロクロa	D	51.99	22.29	26.91	32.5		土師器内側不延部	AZ.8
31	312	G18-20				10.7	ロクロa+e ²	ロクロa	B						土師器内側不延部	
32	310	FY1		13.7	3.3	8.2	ロクロa+b	ロクロa	A	56.40	13.08	32.08	25.8		須惠器环	
33	311	FY1		15	3.8	9.1	ロクロa	ロクロa+b	A	53.78	13.68	32.68	27.8		須惠器环	AZ.3
34	313	FY1		14.8	4.1	8.6	ロクロa	ロクロa	A	53.81	14.96	31.97	27.6		須惠器环	AZ.1
35	9			14.0	4.0	8.2	ロクロa	ロクロa	A	53.48	15.86	31.79	26.8		須惠器环	AZ.2
36	313	FY1		14.6	5.4	9.5	ロクロa	ロクロa+b	B	49.49	18.80	32.20	29.6		須惠器高台环	
37	314	G28-16				9.6			B						須惠器高台环	AZ.16
38	316	KY74-D				7.5			B						須惠器高台环	AZ.37
39	315	DY80				9.5			B						須惠器高台环	
40	320	G19-20				9.6			B						須惠器高台环	
41	318	G21-18				9.8			B						須惠器高台环	
42	319	G22-24				7.2			E						須惠器高台环	
43	321	DY13				6.3			A						須惠器不延部	
44	317	G18-24				8.5			B						須惠器不延部	
45	323	G21-21				9.1			A						須惠器不延部	
46	322	Aトレンド				7.5			B						須惠器不延部	

通しNo	遺物No	出土地区	層位	口径	高径	底盤	外圓調整	内面調整	底盤 切離	a点 b点 c点	計	測定値	遺物品名	遺物種類
47	325	GH6-14			8.4				A				須惠器灰陶器	
48	324	DY32			7.3				A				須惠器灰陶器	
49		表 採			8.2				A				須惠器灰陶器	
50	326	G22-20			8.1				A				須惠器灰陶器	
51	327	KY10-A	V	14.2	4.5	7.0	ロクロa+b		D	35.** 17.** 27.**	25.**	55.18-27	須惠器灰陶器	
52	328	DN9			7.2				A				須惠器灰陶器	
53		表 採			7.4		ロクロa					須惠器灰陶器		
54	330	G21-18		13.7	3.8	7.4	ロクロb					須惠器灰陶器		
55	329	PY30		14	4.2	7.3	ロクロa					須惠器灰陶器		
56	331	KY16-B		13.5	4.1	7.0	ロクロb		D	54.** 16.** 28.**	24.**	55.15-30	須惠器灰陶器	AZ23
57	336	C26-18		14.6	4.1	8.0	ロクロb					須惠器灰陶器		
58	332	G20-22		13.6	4.3	6.1	ロクロa		D	54.** 15.** 29.**	26.**	55.15-29	須惠器灰陶器	
59	337	KY16-A		13.0	4.2	6.5	ロクロb		D	56.** 17.** 25.**	24.**	57.18-25	須惠器灰陶器	AZ23
60	333	KY74		14.5	4.3	7.1	ロクロb		D	54.** 17.** 27.**	23.**	55.18-27	須惠器灰陶器	
61	338	G18-19		14.5	4.7	6.5	ロクロb+d		D	55.** 18.** 25.**	25.**	56.18-27	須惠器灰陶器	
62	334	DY13		13.5	4.1	7.1	ロクロb		D	54.** 16.** 28.**	24.**	57.18-25	須惠器灰陶器	AZ32
63	339	G20-22		13.6	3.5	7.2	ロクロa+b		D	55.** 14.** 29.**	24.**	56.14-30	須惠器灰陶器	
64	340	DY27		13.8	4.8	6.1	ロクロa+b		D	55.** 19.** 24.**	24.**	56.19-25	須惠器灰陶器	AZ42
65	343	GY80		15.3	4.5	7.3	ロクロa		D	56.** 16.** 26.**	27.**	56.17-27	須惠器灰陶器	AZ38
66	335	DY13		14.2	4.1	6.8	ロクロa+b		D	56.** 16.** 27.**	25.**	57.16-27	須惠器灰陶器	
67	341	G20-16		13.8	4.3	6.2	ロクロa+b		D	56.** 17.** 25.**	24.**	57.18-25	須惠器灰陶器	
68	344	DY12		13.6	4.6	6.3	ロクロa		D	55.** 18.** 25.**	24.**	55.19-26	須惠器灰陶器	
69	342	KY11		14.3	4.6	5.7	ロクロa		D	58.** 18.** 23.**	24.**	58.19-23	須惠器灰陶器	AZ31

通し番号	出土地地区	層位	口径	高さ	底径	外側調整	内側調整	調整範囲	前部切削	a点	b点	c点	計	計測値	遺物品名	遺物登録番号
70	41	KY74		12.5	(4.9)	(7.7)			D						須惠器高台杯	A.Z15
71	345	FY1		(14)	(5.9)	8.8			D	53. ^{a1}	13. ^{a2}	33. ^{a3}	24. ^a	54:13:33	須惠器高台杯	A.Z40
72	346	KY74		13.3	3.3	8.3			D	56. ^{a4}	13. ^{a5}	30. ^{a6}	21. ^a	56:14:30	須惠器高台杯	A.Z22
73	404	DY12		12.2	3	6.6			D						須惠器高台杯	
74	459	G16-24				7.6			I						須惠器高台杯	
75		表 採				7.0			D						須惠器高台杯	
76	347	G16-24				6.3			D						須惠器高台杯	
77	410	G16-22				6.9			D						須惠器高台杯	
78	405	G20-16				7.7			D						須惠器高台杯	
79	47					8.0			D						須惠器高台杯	
80	406	G22-23				7.1			D						須惠器高台杯	
81	383	G22-16				6.9			D						須惠器高台杯	
82	388	Aトランチ				7.2			D						須惠器高台杯	
83	353	G22-20				7.2			D						須惠器高台杯	
84	82	G22-21 G18-24				7.4			D						須惠器高台杯	
85	65	G13-19				7.3			D						須惠器高台杯	
86	13	G24-19				7.3			D						須惠器高台杯	
87	38	G25-15				7.5			D						須惠器高台杯	
88		表 採				7.6			D						須惠器高台杯	
89		表 採				7.5			D						須惠器高台杯	
90	408	KY5				6.8			D						須惠器高台杯	
91	407	G19-20				6.1			D						須惠器高台杯	
92	51					6.3			D						須惠器高台杯	

通し番号	遺物名	出土地区	層位	口径	高径	底径	外面調査	内面調査	底感	切端	底感	調整	a点	b点	c点	計	計測値	遺物品名	遺物番号
93	381	DN9	I		6.6					D								須惠器环底部	
94	姜採				6.7					D								須惠器环底部	AZ12
95	姜採				6.3					D								須惠器环底部	
96	姜採				6.3					D								須惠器环底部	
97	403	C29-16			6.4					D								須惠器环底部	
98	382	C22-21			6.1					D								須惠器环底部	
99	348				5.9					D								須惠器环底部	
100	402	DY12			6.4					D								須惠器环底部	
101	401	Q25-15			6.3					D								須惠器环底部	AZ18
102	389	C22-23			6.0					D								須惠器环底部	
103	383	姜採			5.2					D								須惠器环底部	
104	349				6.1					D								須惠器环底部	
105	395	KY11			5.3					D								須惠器环底部	
106	350				6.1					D								須惠器环底部	AZ22
107	396	G15-13			6.1					D								須惠器环底部	
108	400	DY12			6.1					D								須惠器环底部	
109	姜採				6.0					D								須惠器环底部	
110	384	C25-17			5.8					D								須惠器环底部	
111	39				(5.5)					D								須惠器环底部	
112	351				8.3					D								須惠器高台不底部	AZ35
113	387	C20-22			8.4					D								須惠器高台不底部	
114	9				9.0					D								須惠器高台不底部	
115	388	DN9	II		(7.3)					D								須惠器高台不底部	

通L.No	地點No	出土地區	層位	口徑	高程	底徑	外圓調整	內面調整	面鉆頭	底鉆頭	切槽	D	a 点	b 点	c 点	計	計測值	遺 物 品 名	遺 物 質 地
116	20	麥 播				6.3												須惠器高台杯形部	
117	20																	須惠器蓋	
118	362	KY11																須惠器蓋	
119	363	G16-24																須惠器蓋	
120	365	G16-24		14.8	(3.7)													須惠器蓋	
121	45	KY74		15.6	(3.1)													A Z 25	
122	352	KY74		14.6	2.8													須惠器蓋	
123	13																	須惠器蓋	
124	364	G25-14		14.7														須惠器蓋	
125	368	G19-22		15.0														須惠器蓋	
126	366	TY20		14.2														須惠器蓋	
127	367	G16-22		16.8														須惠器蓋	
128	7																	土師器蓋	
129	375	G20-16																須惠器蓋頭部片	
130	379	G16-22																須惠器蓋口緣部分	
131	376	G21-11																布目瓦	
132	369	DN 9																A Z 1	
133	209	KY1-E																布目瓦	
134	484	KY 2	II															A Z 2	
135	484	KY 2	II															須惠器蓋部	
136	407	KY 4	II															須惠器蓋頭部	
137	321	KY1-E	VI															須惠器蓋頭部	
138	486	KY 3																須惠器蓋頭部	

通し番号	遺物名	出土地区	層位	口径	高径	底径	外面調整	内面調整	底盤	底盤切端	計測値	遺物品名
139	表 横						叩目B*	押え目A*				須恵器縦壓扁部
140	261	表 横					叩目B*	押え目A*				須恵器縦壓扁上部片
141		表 横					叩目B*	押え目A*				須恵器縦壓扁上部片
142	25	KY1-B	II				叩目B*	押え目A*				須恵器縦壓扁上部片
143	138	KY1-D	V				叩目B*	押え目A*				須恵器縦壓扁上部片
144	487	表 横					叩目B*	押え目A*				須恵器縦壓扁部片
145	211	KY2	II				叩目B*	押え目A*				須恵器縦壓扁上部片
146	380	KY1					叩目B*	押え目A*				須恵器縦壓扁上部片
147	376	KY1-D	V				叩目B*	押え目A*+A*				須恵器縦壓扁部片
148	188	KY1-E	V				叩目B*	押え目A*				須恵器縦下削部片
149	100	KY1-D	II				叩目B*	押え目A*				須恵器縦壓扁部片
150	318	KY1-E	VI				叩目B*	押え目A*				須恵器縦壓扁部片
151	35	KY1-B	II				叩目B*	押え目A*+Aキ目				須恵器縦壓扁部片
152	332	KY1-E	V				叩目B*	ヘラ調整ナナデ				須恵器縦下削部片
	282	KY1-D	V									須恵器縦壓扁部片
153	355	C20-14					クシ彫被伏文	ロクロア				須恵器縦壓扁部片
154	359	C20-14					クシ彫被伏文	ロクロア				須恵器縦壓扁部片
155	356	G22-29					クシ彫被伏文	ロクロア				須恵器縦壓扁部片
156	357	DN 9					クシ彫被伏文	ロクロア				須恵器縦壓扁部片
157	358	DY12					クシ彫被伏文	ロクロア				須恵器縦壓扁部片
158		表 横					クシ彫被伏文	ロクロア+b				須恵器縦壓扁部片
159	360	DY80					叩目B*	押え目A*				須恵器縦壓扁上部片
160	361						叩目B*	押え目A*				須恵器縦壓扁上部片
161	354	G15-21					叩目B*	押え目A*				須恵器縦壓扁上部片

AZ35

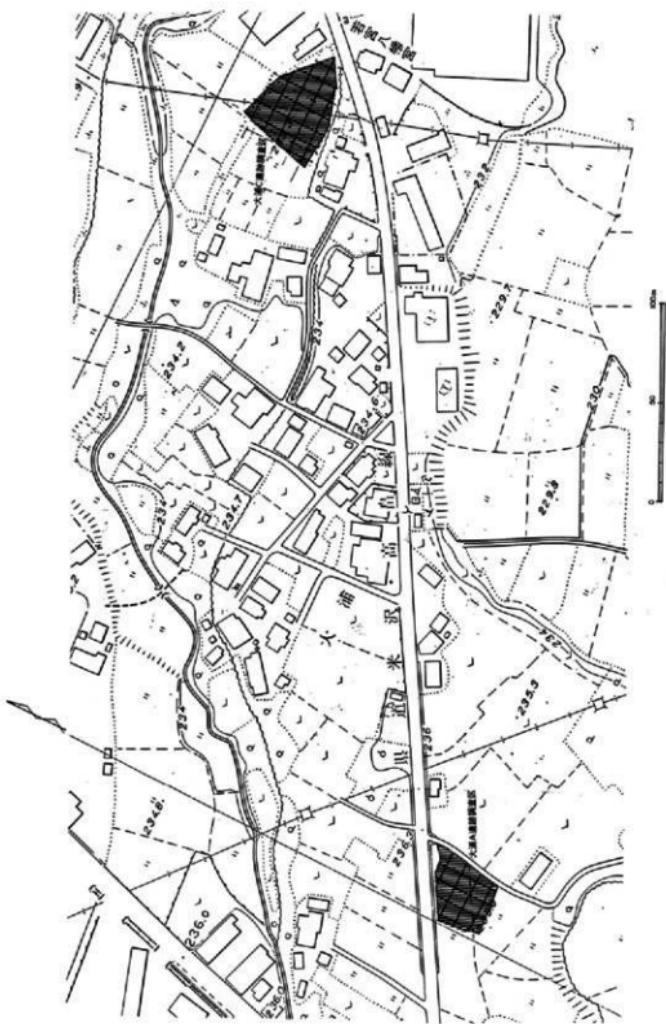
通し番号	出土地点	層位	口径	高径	底径	外面調整	内面調整	底部 切端	断面 切端	a点	b点	c点	計	計測量	遺物品名	層級No.
162	373	DN 9	IV			叩目B ³	押え目A ¹							須恵器要門上部片		
163	380	G18-19				叩目B ⁴	押え目A ³							須恵器要門上部片		
164	3					叩目B ⁵	押え目A ⁷							須恵器要門上部片		
165	386	G13-18				叩目B ⁶	押え目A ³							須恵器要門上部片		
166	392	C22-32				叩目B ¹	押え目A ⁶							須恵器要門上部片		
167	26					叩目B ⁶	押え目A ⁷							須恵器要門上部片	AZ 9	
168	393	G17-20				叩目B ⁶	押え目A ⁷							須恵器要門上部片		
169	371	C25-15				叩目B ⁶	押え目A ⁷							須恵器要門上部片		
170	387					叩目B ⁶	押え目A ⁷							須恵器要門上部片		
171	372	C23-19				叩目B ⁶	押え目A ¹							須恵器要門上部片		
172	44	KY11				叩目B ⁶	押え目A ¹ +A ³ +A ⁶							須恵器要門上部片		
173	385	KY24-6				叩目B ⁶	押え目A ¹ +A ⁶							須恵器要門上部片		
174	390	DN 9	II			叩目B ³	押え目A ⁴ +ヘラ彫削 ²						須恵器要門下脚部片			
175	394	DN 9	IV			叩目B ⁶	押え目A ³							須恵器要門下脚部片		
176	391	C21-19				叩目B ⁶	押え目A ³ +A ⁶						須恵器要門下脚部片			
177	377	G16-12				叩目B ⁷	ヘラ彫削 ³ +ナナテ ²						須恵器要門下脚部片			
178	374	G16-25				叩目B ³	押え目A ⁴						須恵器要門下脚部片			
179	378	C22-23				叩目B ⁶	カナヘラ彫削 ¹ +d ² +d ³						須恵器要門下脚部片			
180	370	G18-19				叩目B ⁶	押え目A ⁷						須恵器要門下脚部片			
181	33	表 挿				叩目B ³	ヘラ彫削 ² +カキ目 ²						須恵器要門下脚部片			
182		表 挿				叩目B ³	押え目A ¹ +A ⁶						須恵器要門下脚部片			
183		表 挿				叩目B ¹	押え目A ⁶						須恵器要門下脚部片			

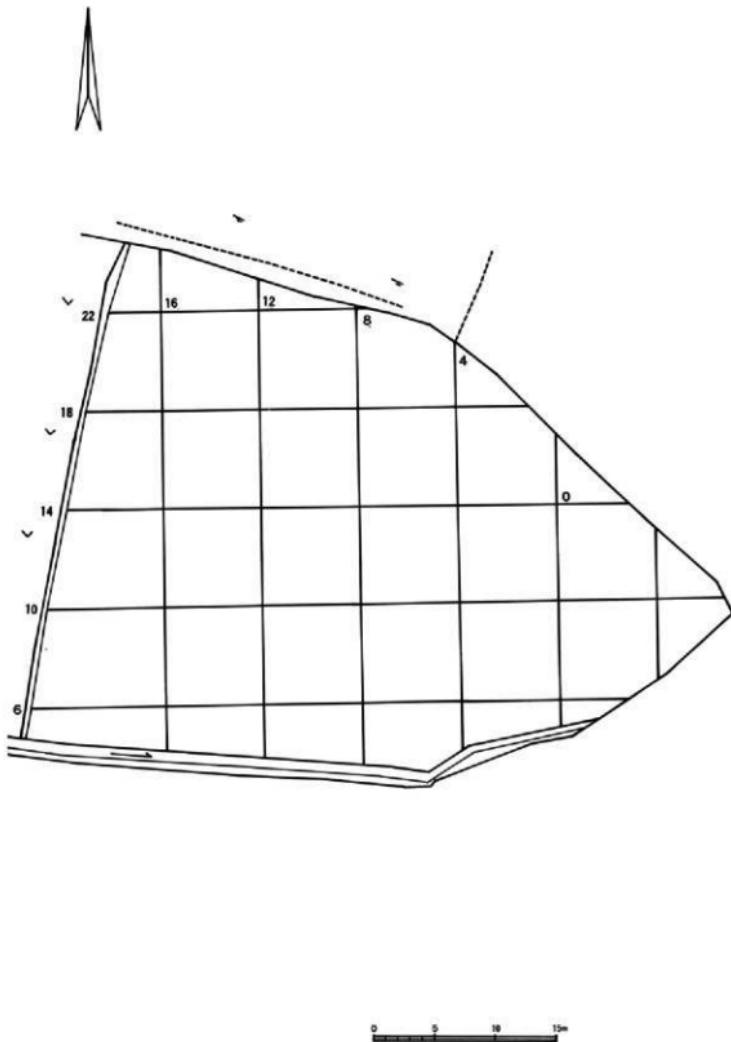
* 出土土器における調査手法は、すべて「笠置遺跡報告書」に準じた。



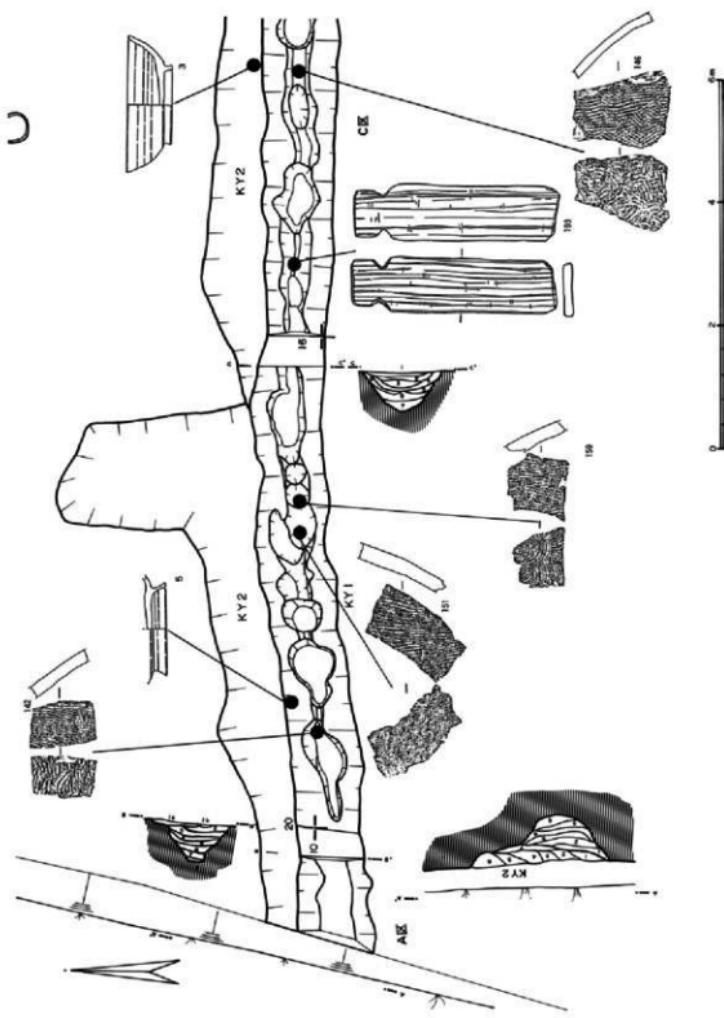
第1図 大浦A・大浦C遺跡位置図

第2図 大浦A・大浦C漁港周辺地形図

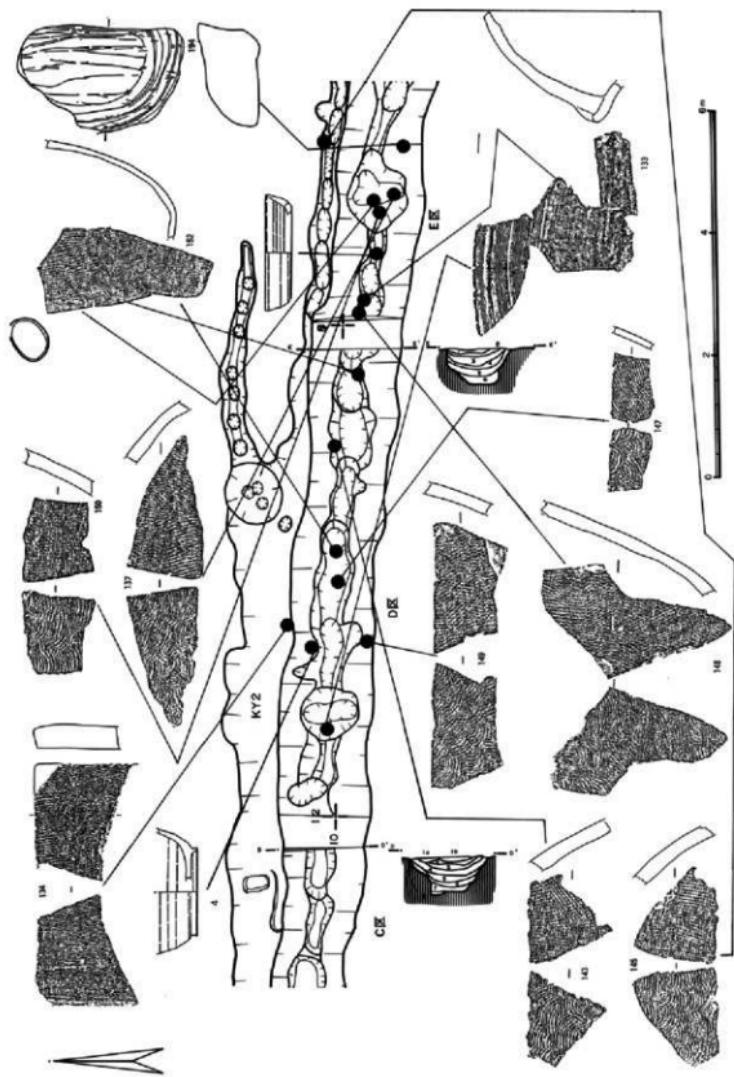




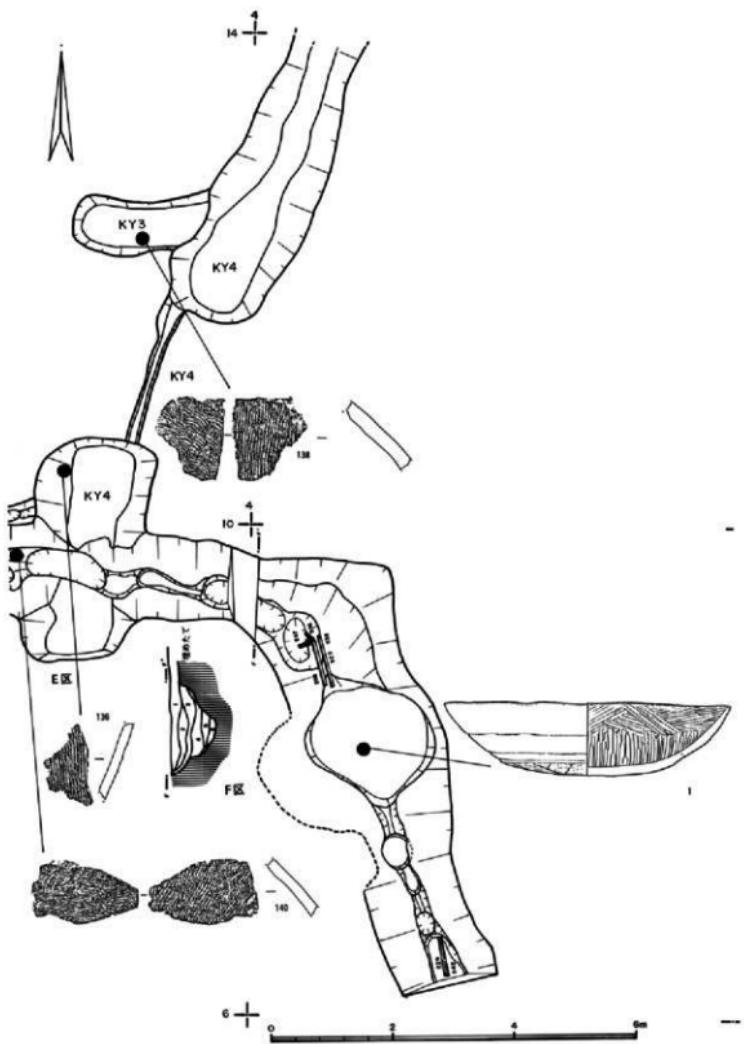
第3図 大浦C遺跡グリッド配図



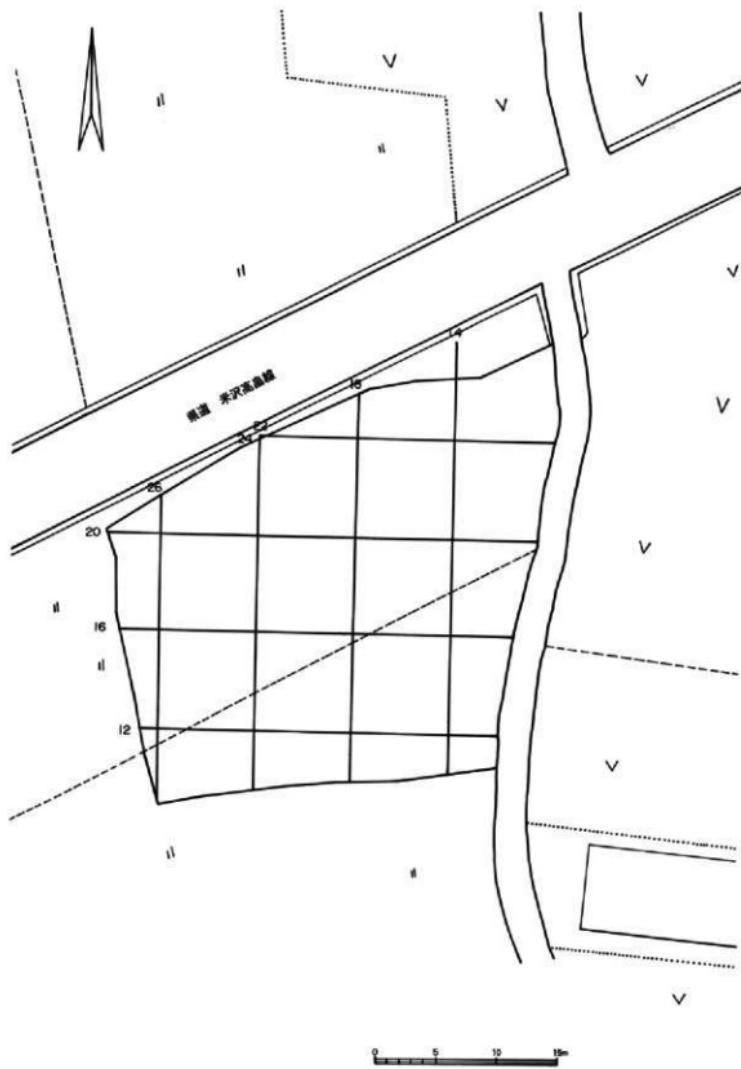
第4図 大浦C遺跡遺構平面図(1)



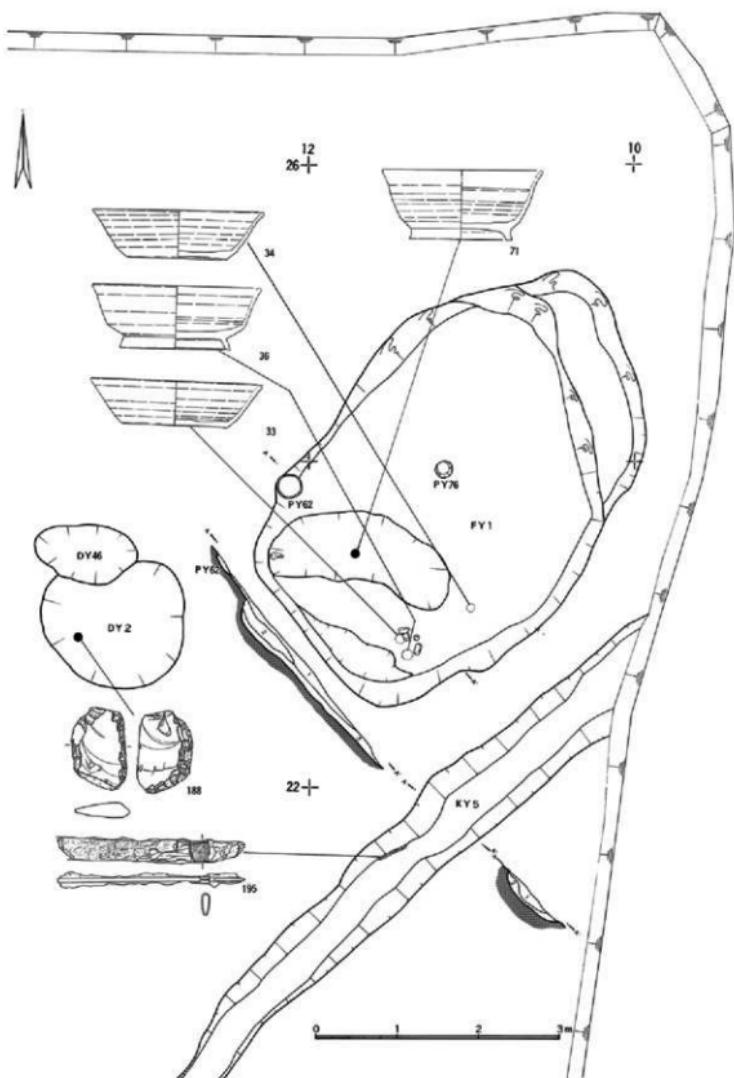
第5図 大浦C透跡透構平面図(2)



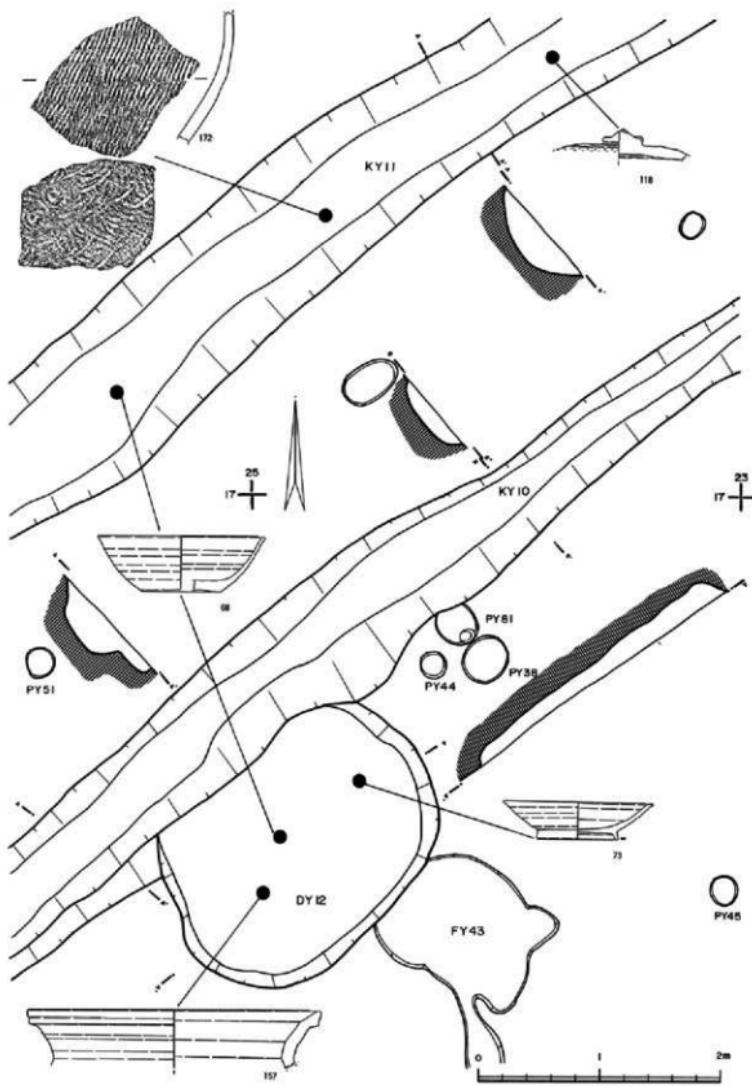
第6図 大浦C遺跡遺構平面図(3)



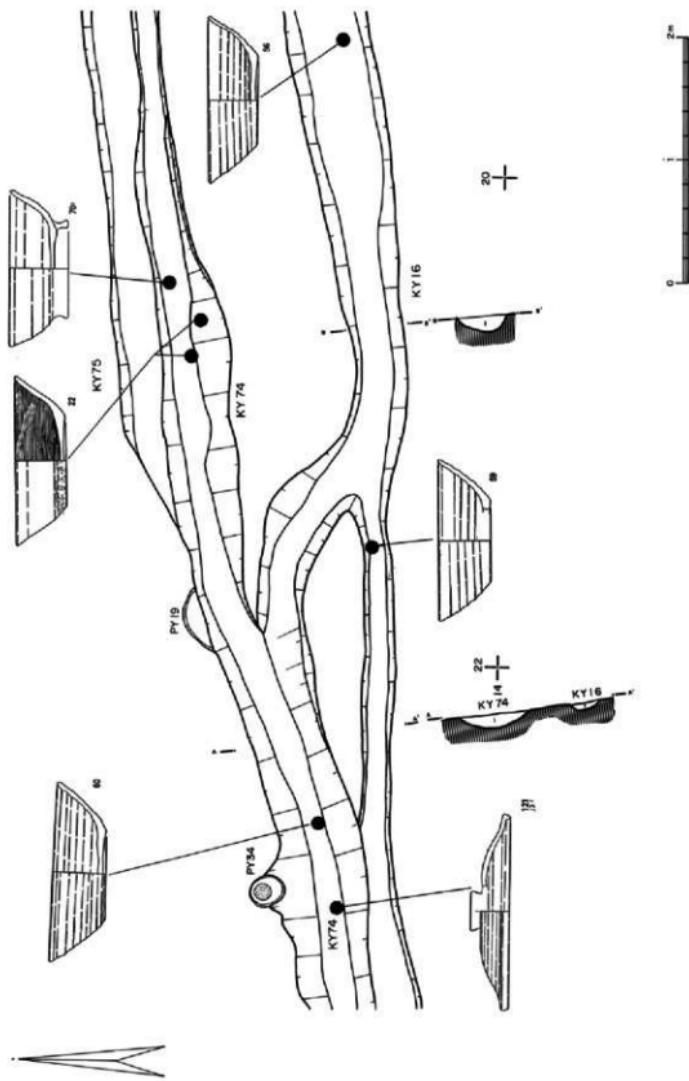
第7図 大浦A造跡グリッド配図



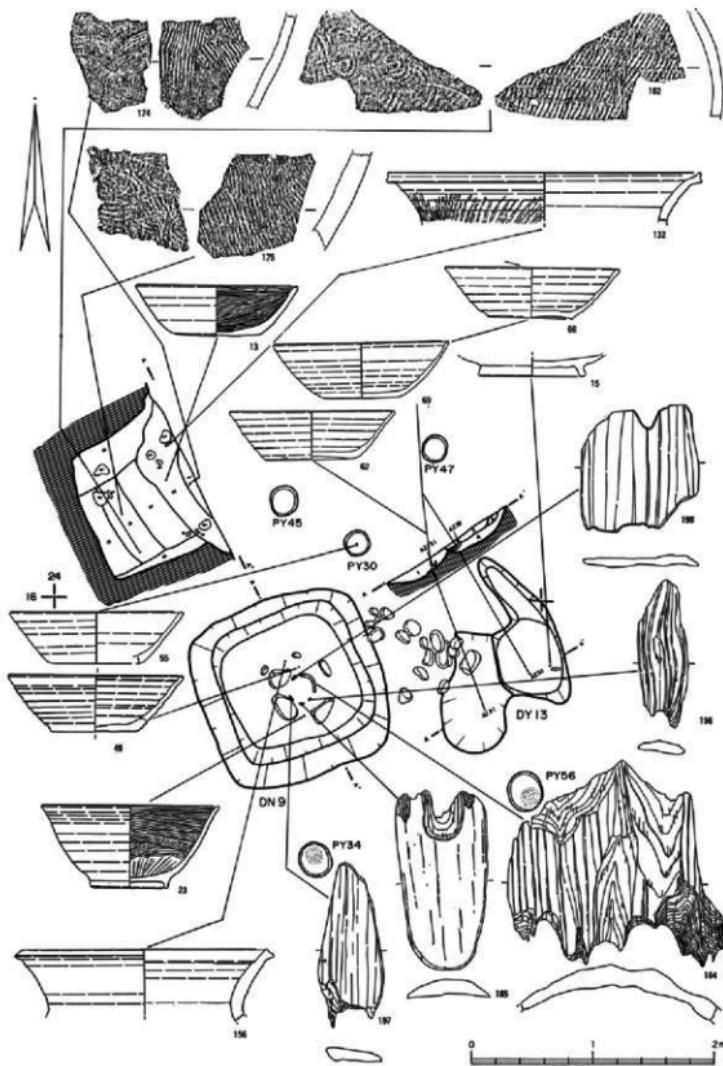
第8図 大浦A遺跡遺構平面図(1)



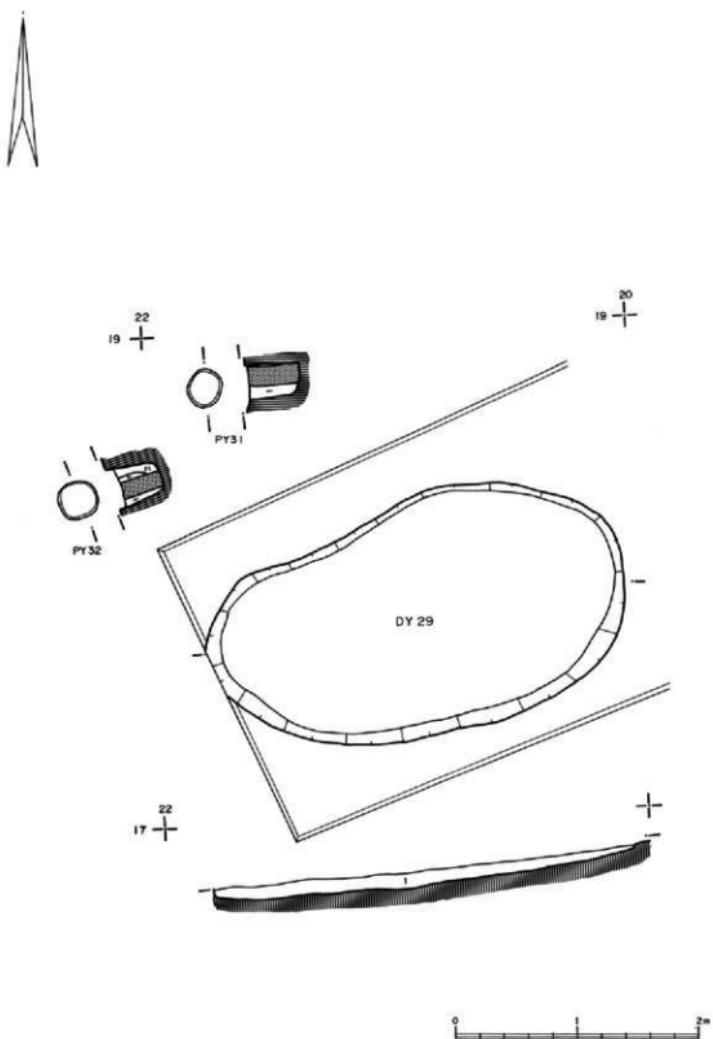
第9図 大浦A遺跡遺構平面図(2)



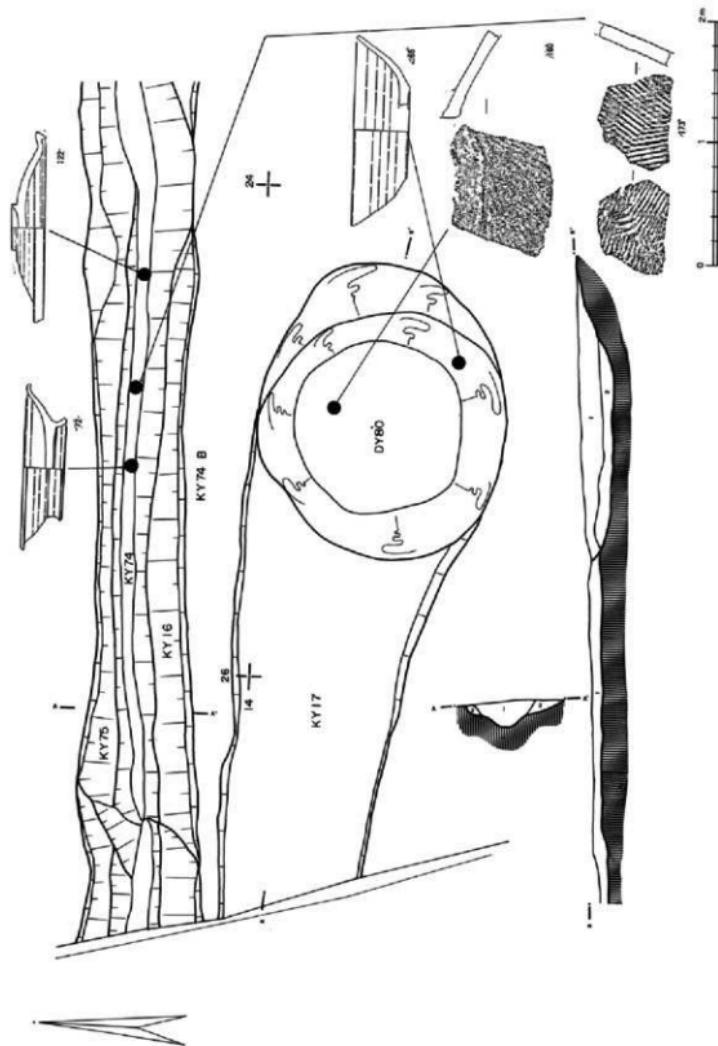
第10図 大浦A遺跡遺構平面図(3)



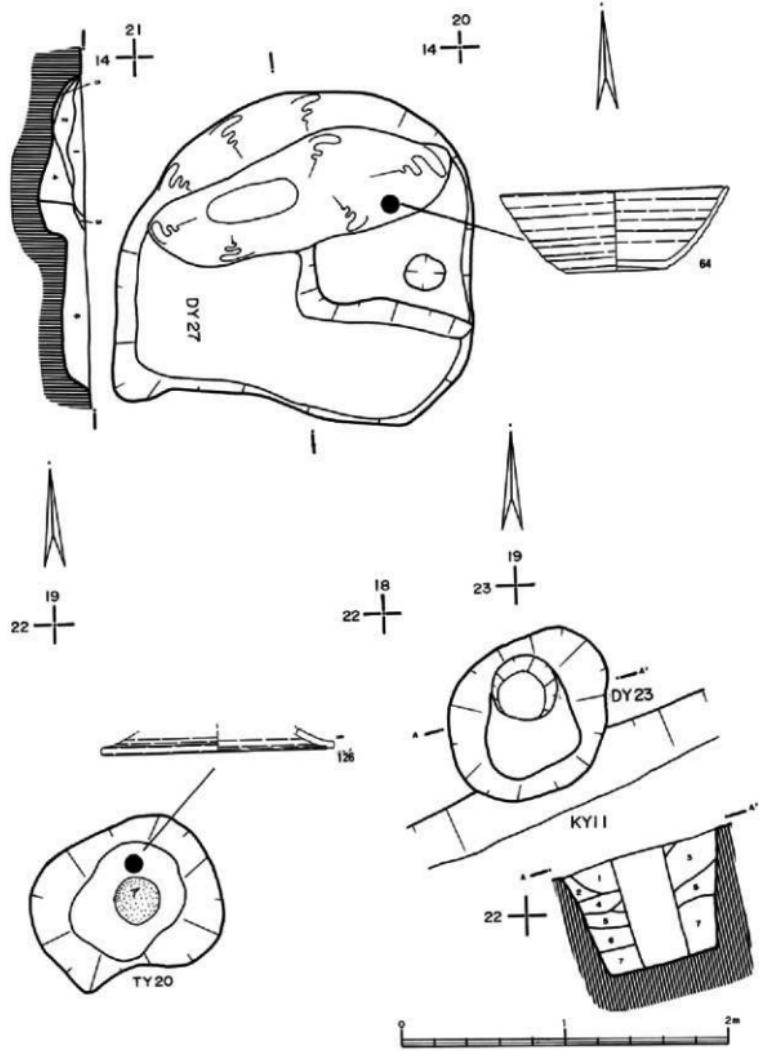
第11図 大浦A遺跡遺構平面図(4)



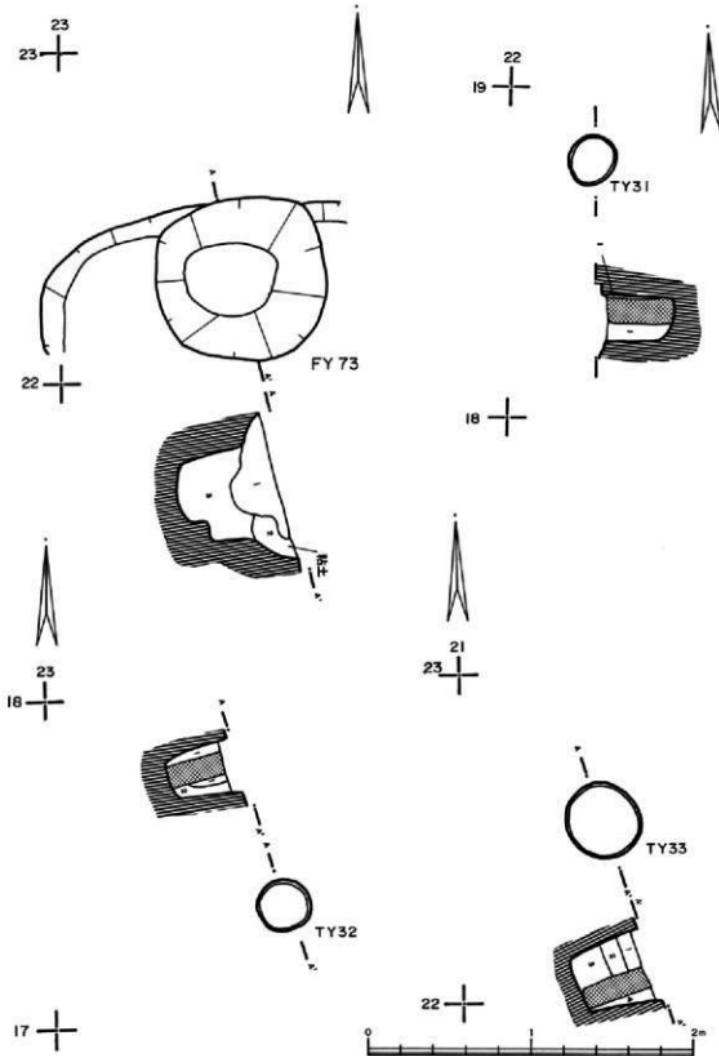
第12図 大浦A遺跡遺構平面図(5)



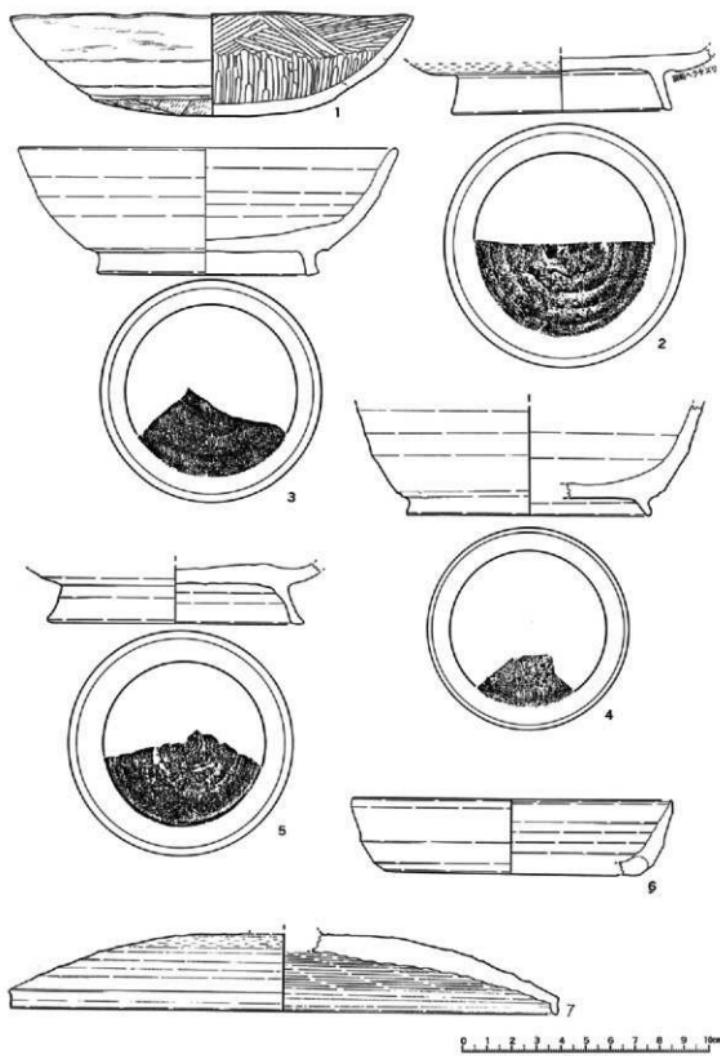
第13図 大浦A遺跡遺構平面図(6)



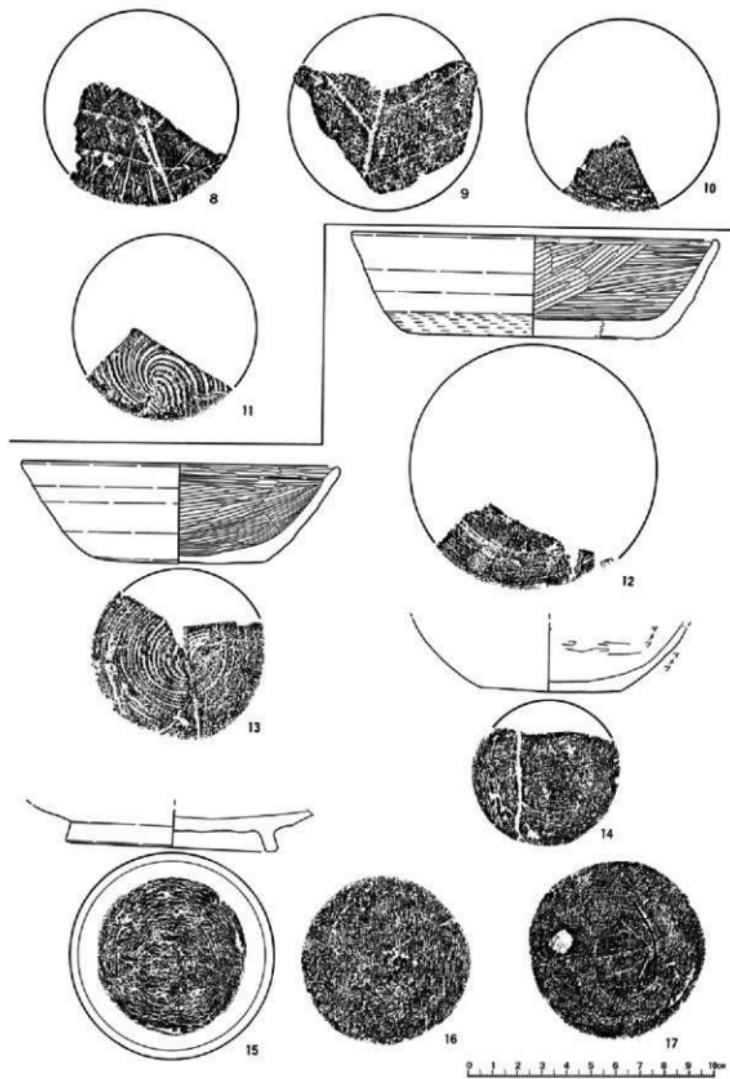
第14図 大浦A遺跡遺構平面図(7)



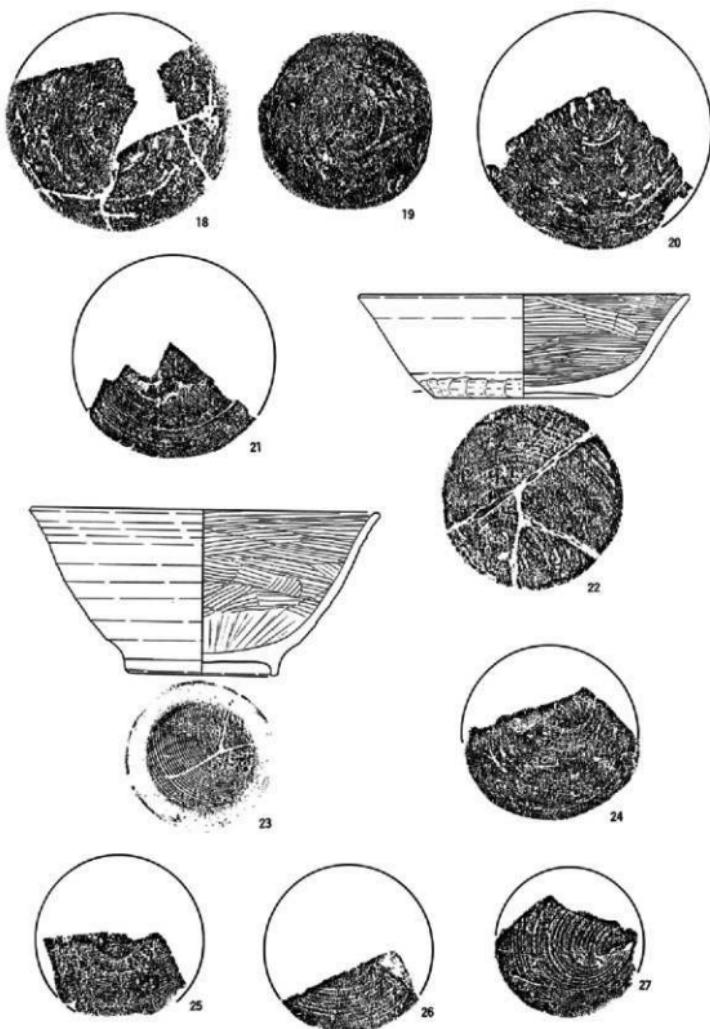
第15図 大浦A遺跡遺構平面図(8)



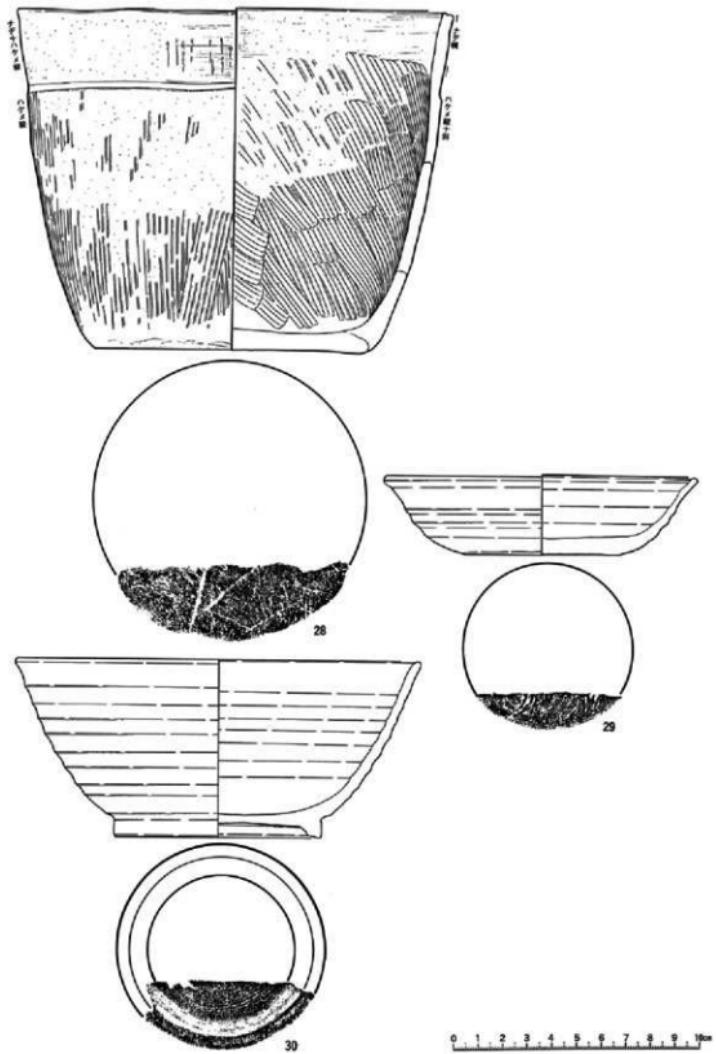
第16図 大浦A・大浦C遺跡出土の遺物(1)



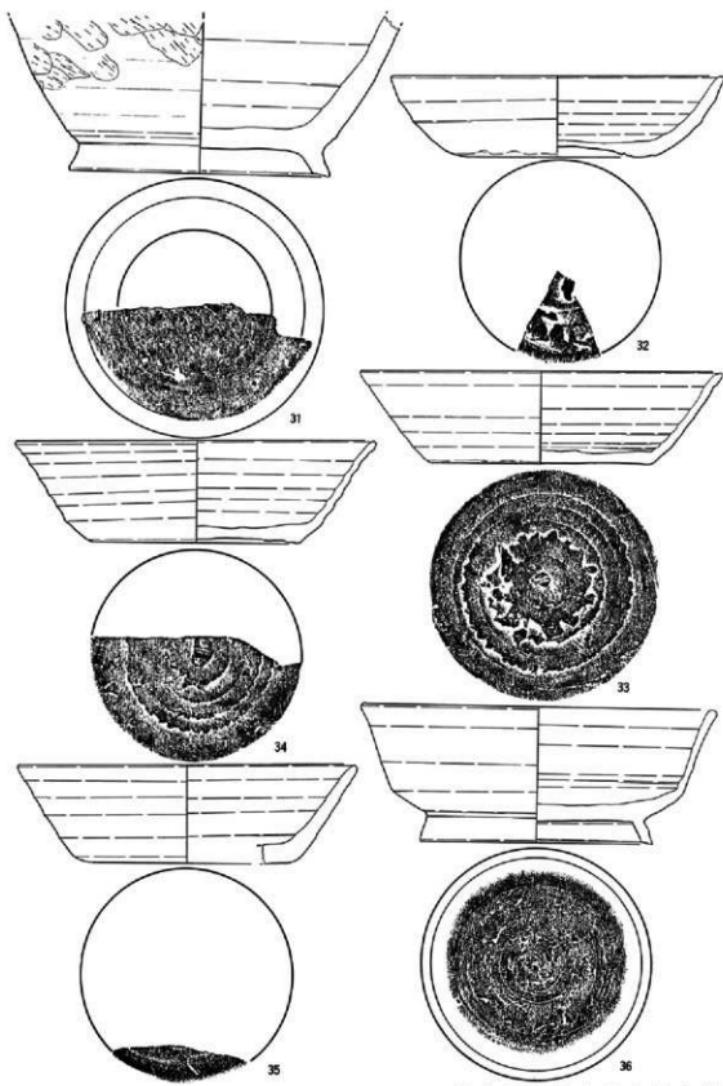
第17図 大酒A・大酒C遺跡出土の遺物(2)



第18図 大浦A・大浦C遺跡出土の遺物(3)

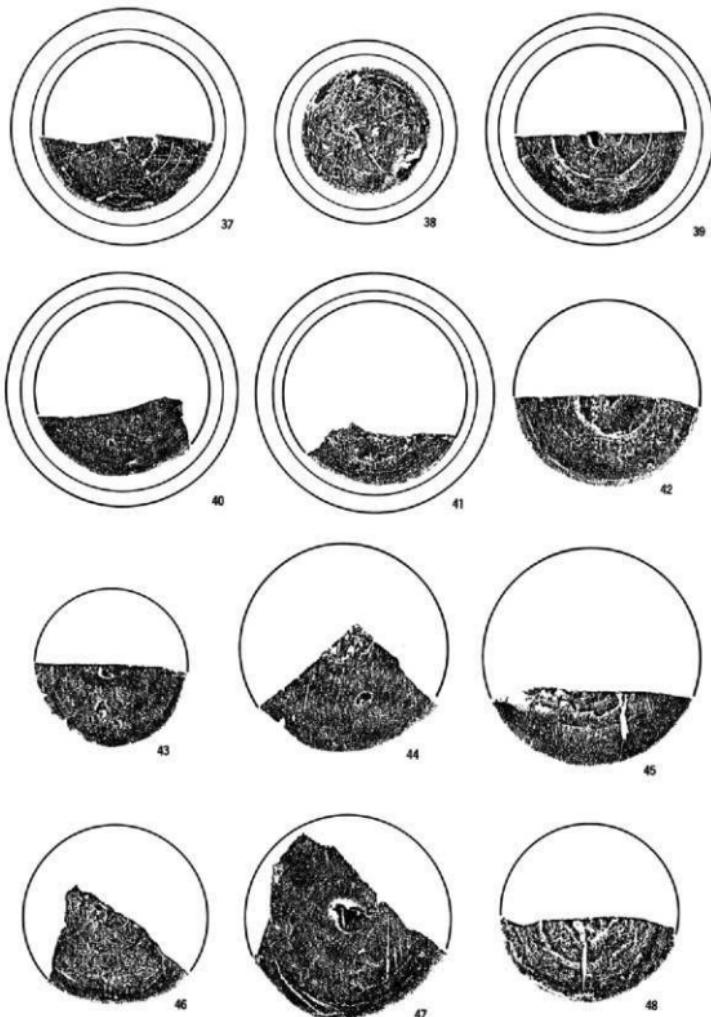


第19図 大浦A・大浦C遺跡出土の遺物(4)



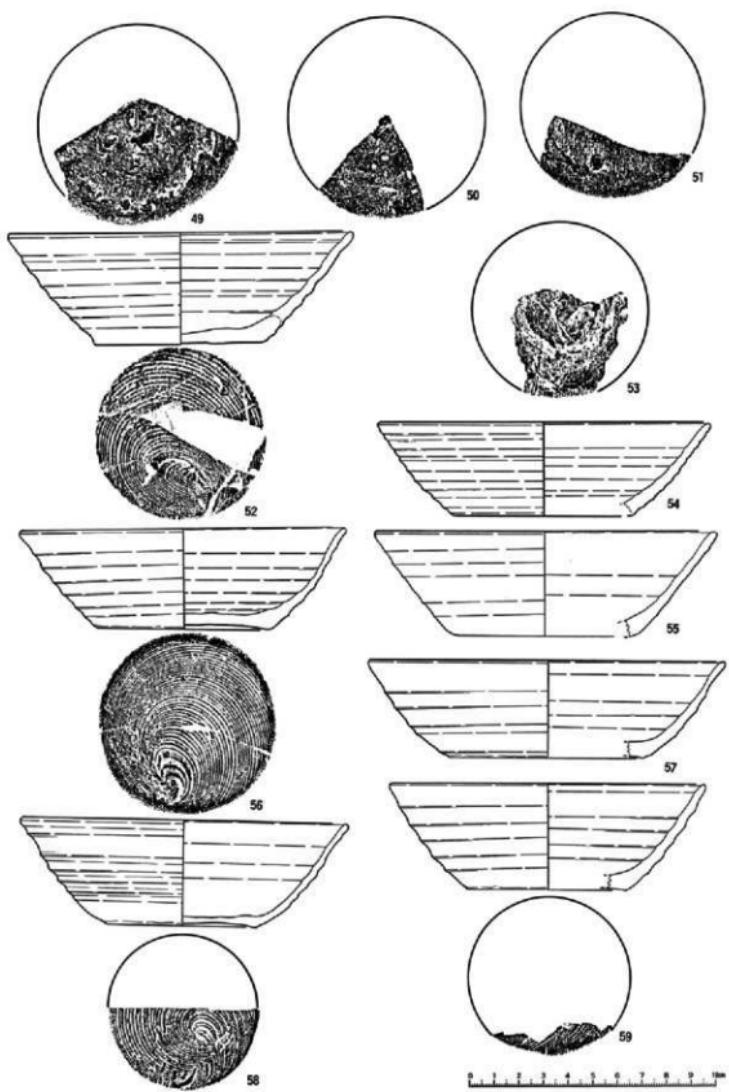
第20図 大浦A・大浦C遺跡出土の遺物(5)

0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10cm

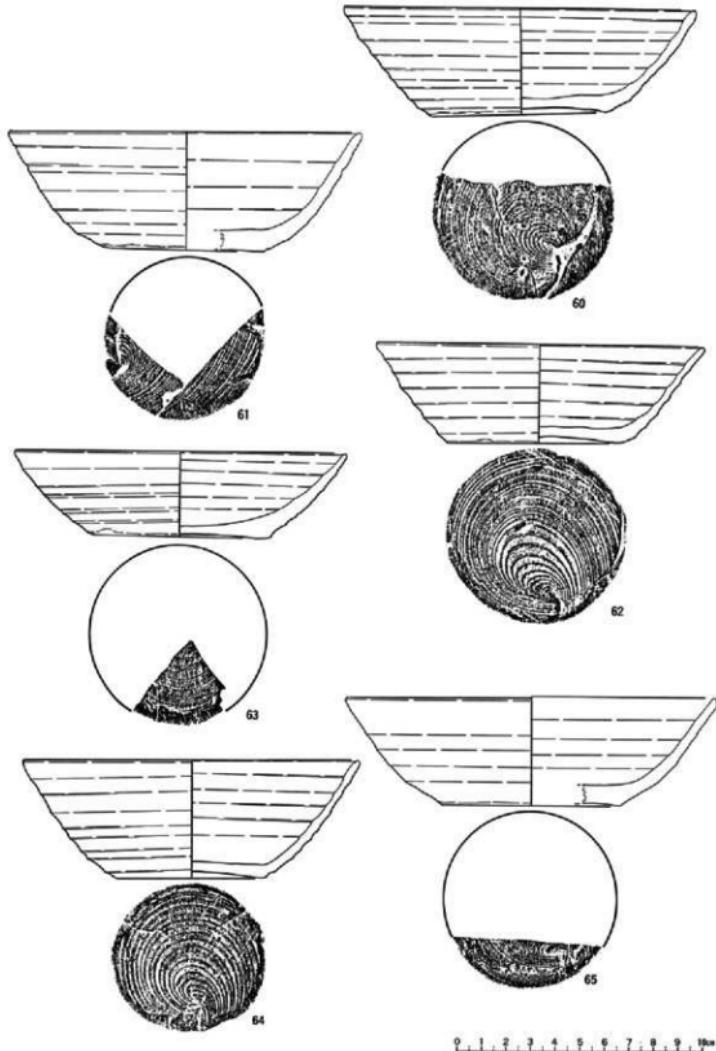


9 - 1 - 2 - 3 - 4 - 5 - 6 - 7 - 8 - 9 - 10a

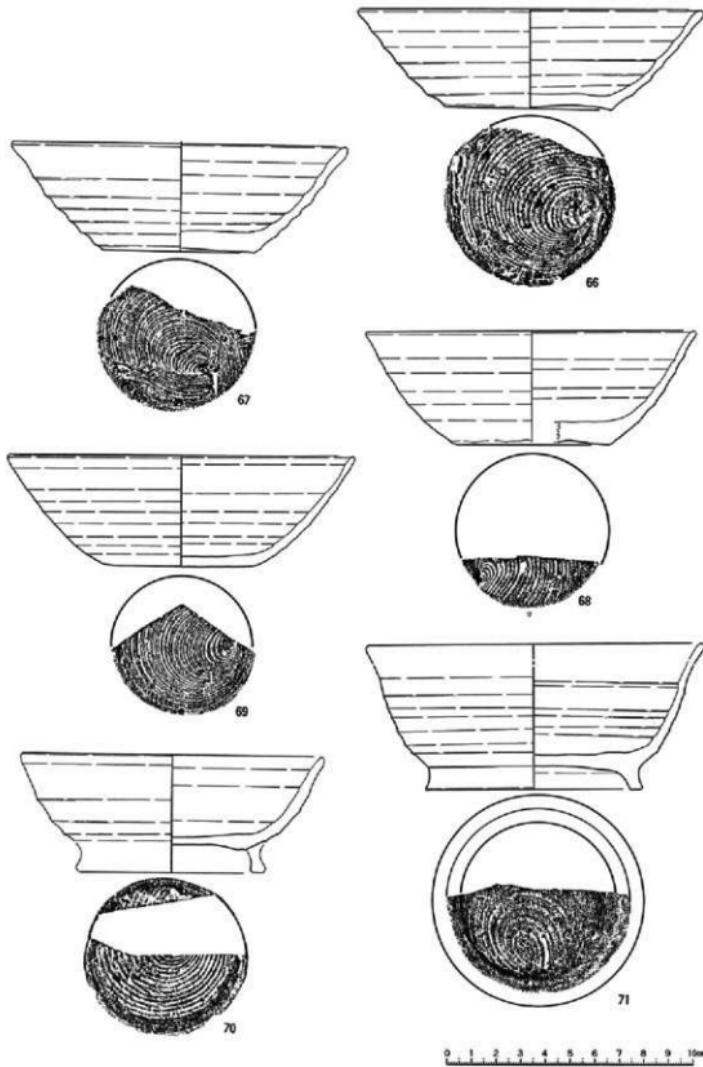
第21図 大浦A・大浦C遺跡出土の遺物(6)



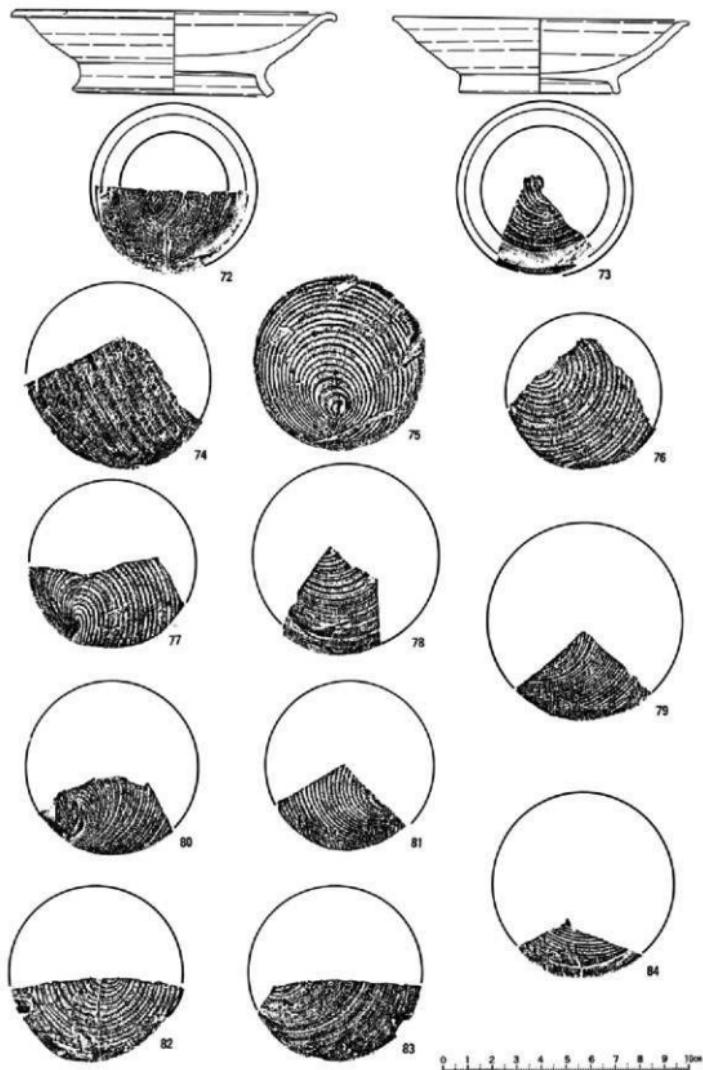
第22図 大浦A・大浦C遺跡出土の遺物(7)



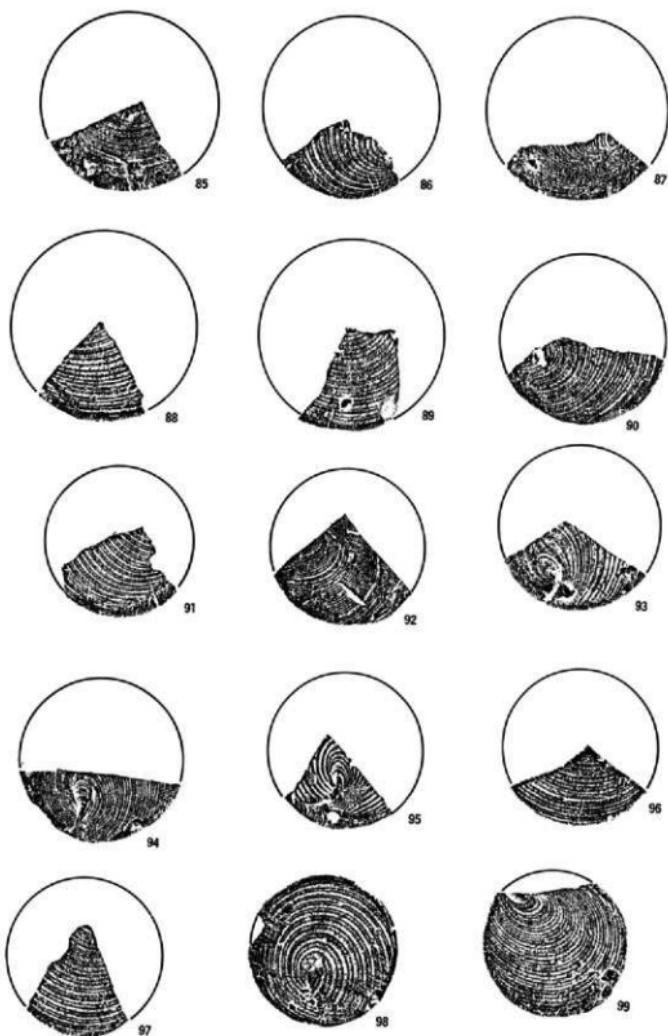
第23図 大浦A・大浦C遺跡出土の遺物(8)



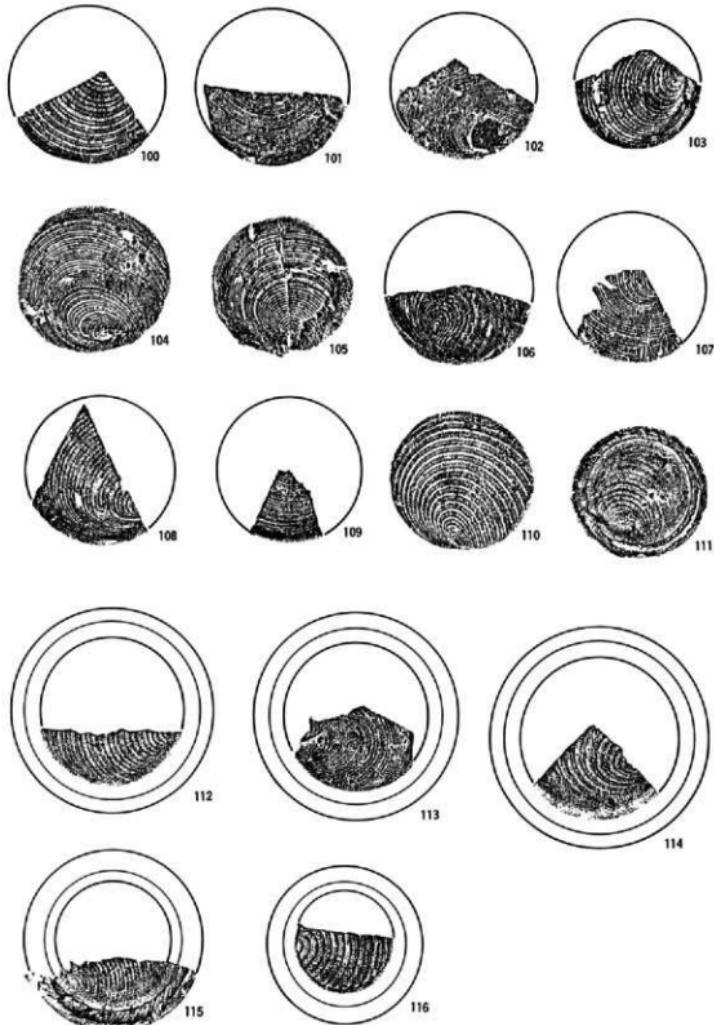
第24図 大浦A・大浦C遺跡出土の遺物(9)



第25図 大浦A・大浦C遺跡出土の遺物(10)

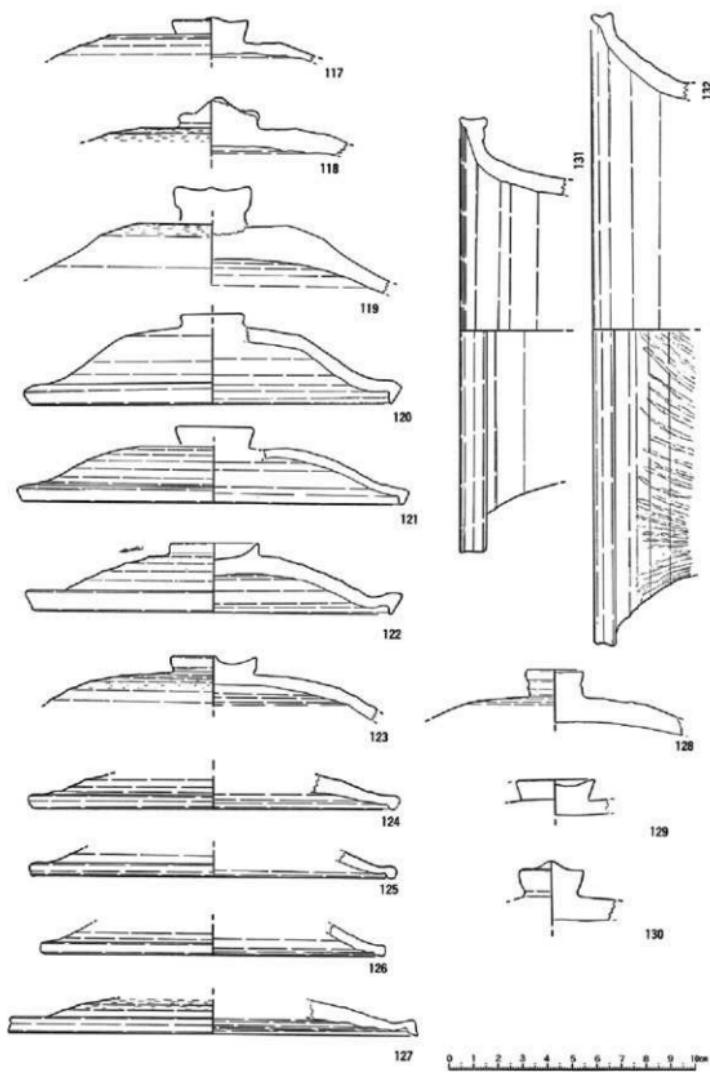


第26図 大浦A・大浦C遺跡出土の遺物(11)

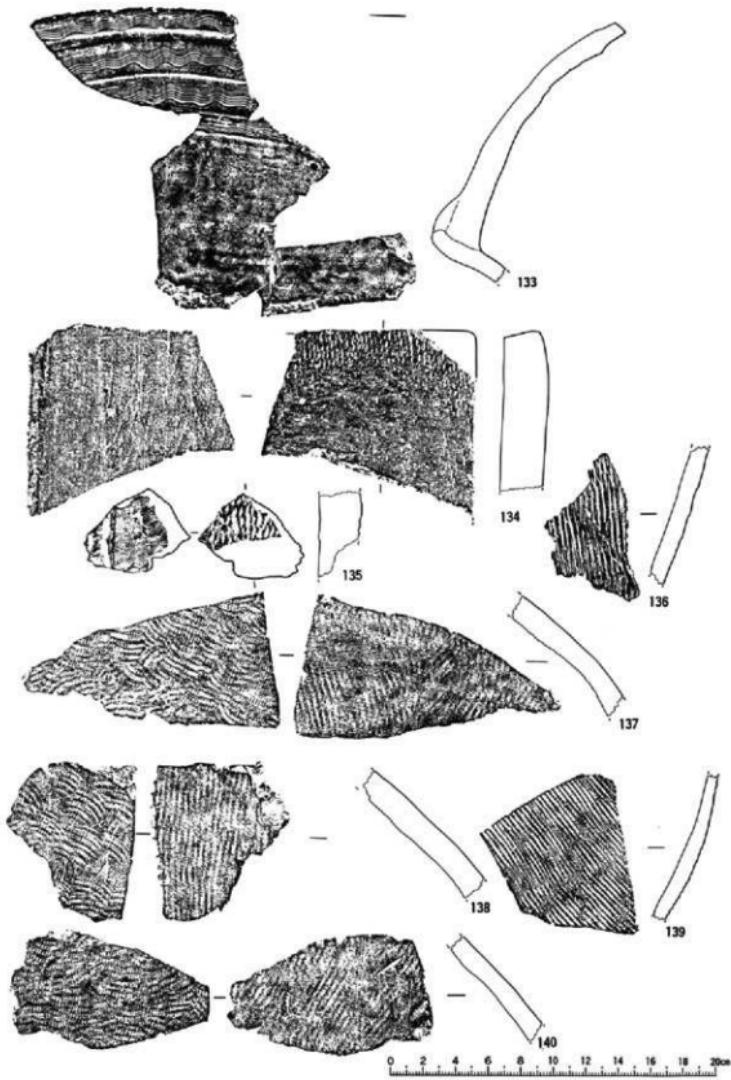


0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10cm

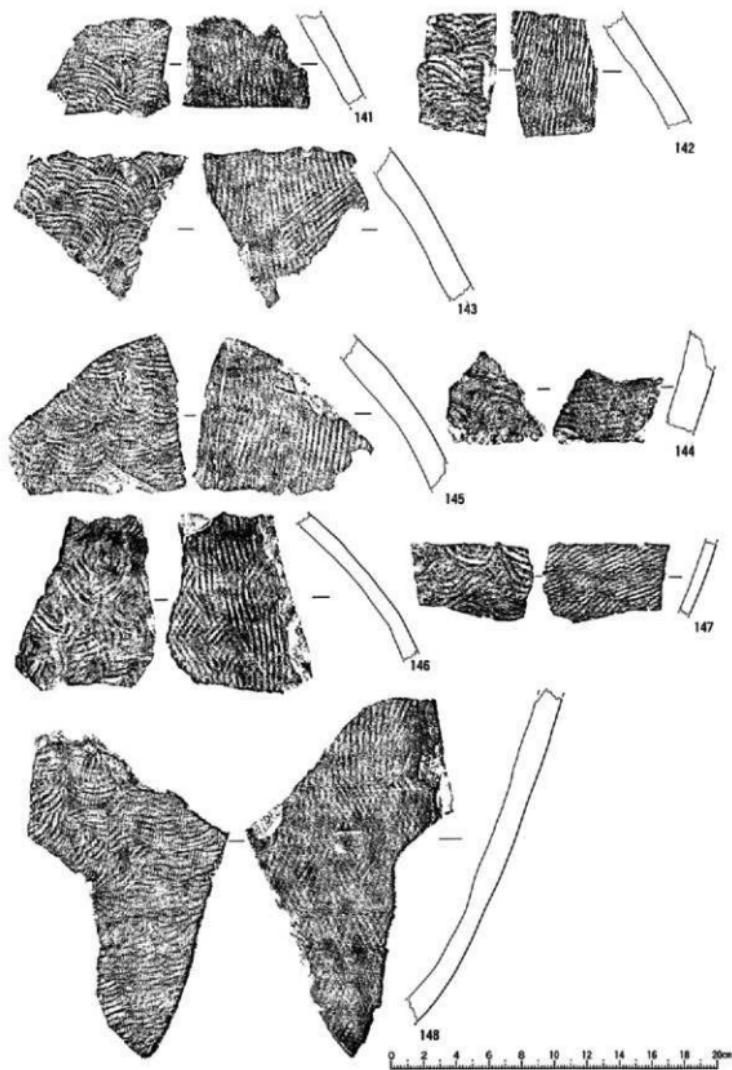
第27図 大浦A・大浦C遺跡出土の遺物(12)



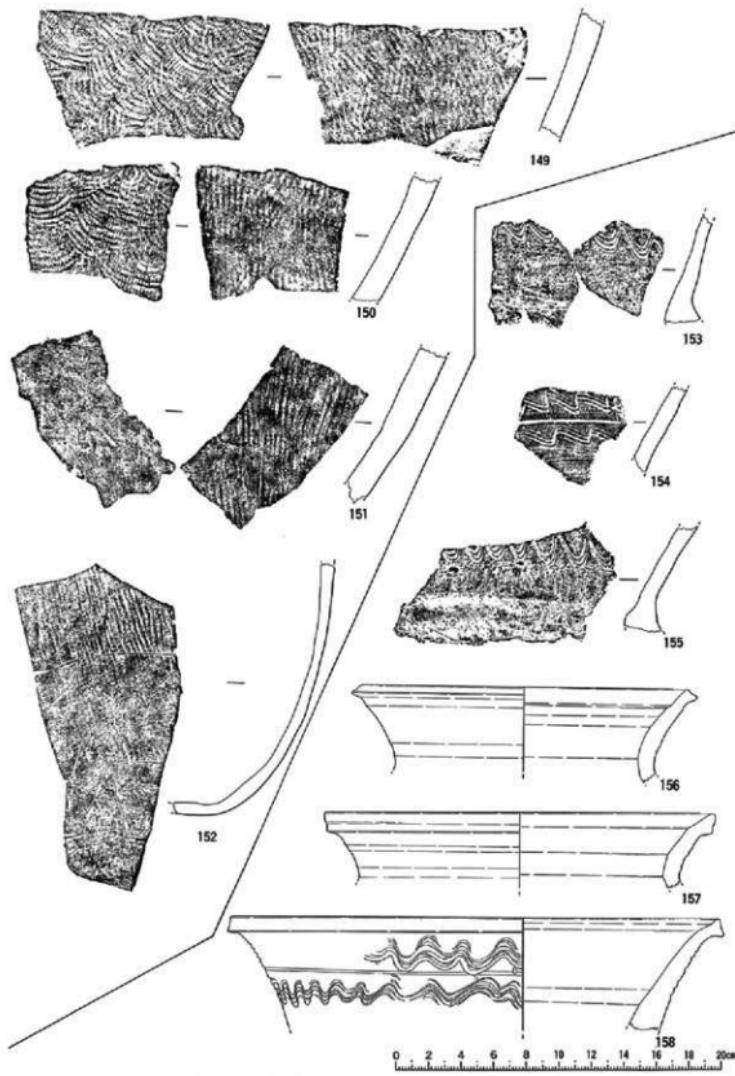
第28図 大浦A・大浦C遺跡出土の遺物(13)



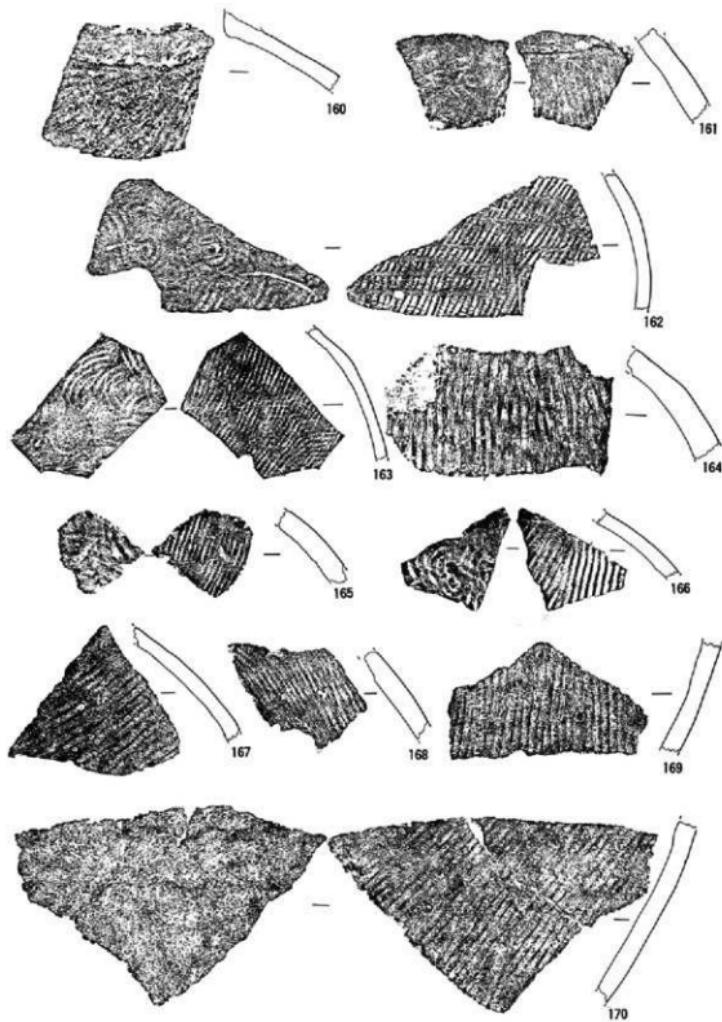
第29図 大湧A・大湧C遺跡出土の遺物(14)



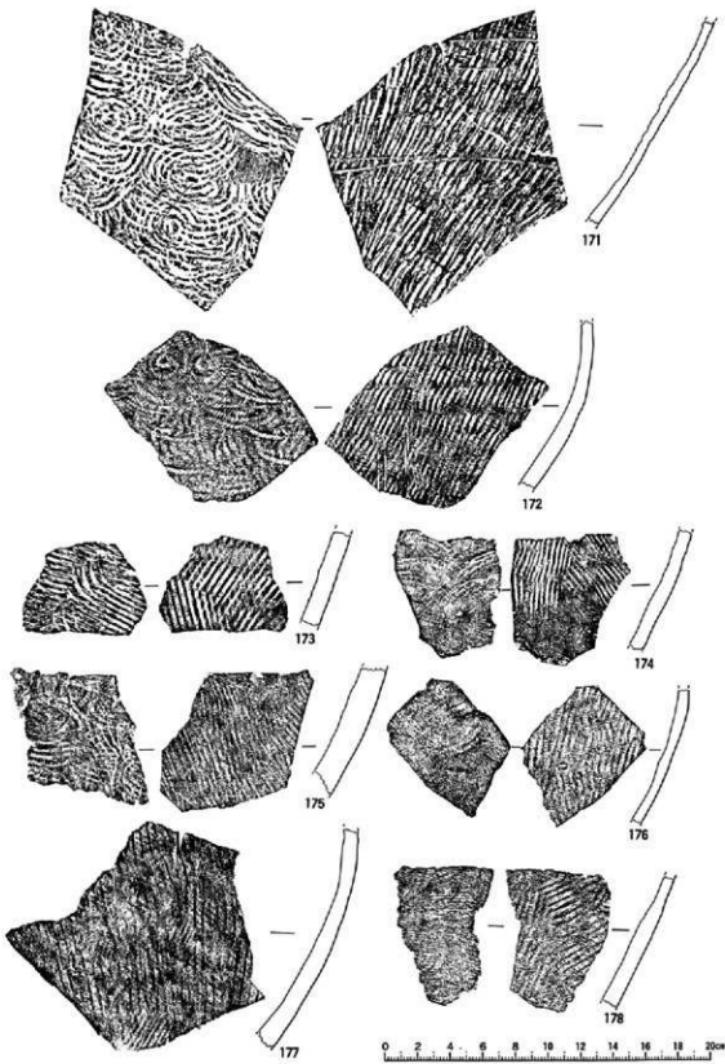
第30図 大浦A・大浦C遺跡出土の遺物(15)



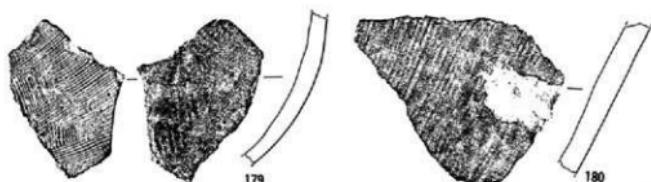
第31図 大浦A・大浦C遺跡出土の遺物(16)



第32図 大浦A・大浦C遺跡出土の遺物(17)



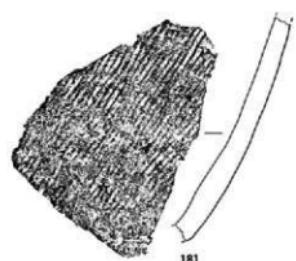
第33図 大浦A・大浦C遺跡出土の遺物(18)



179



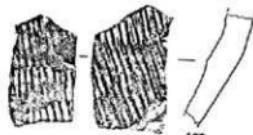
180



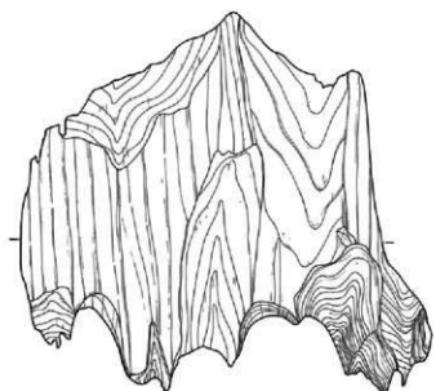
181



182



183



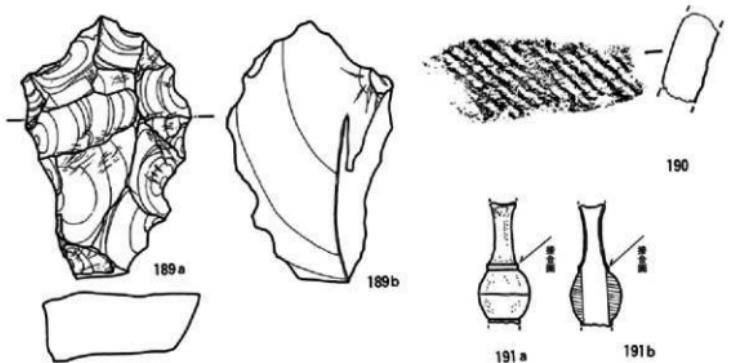
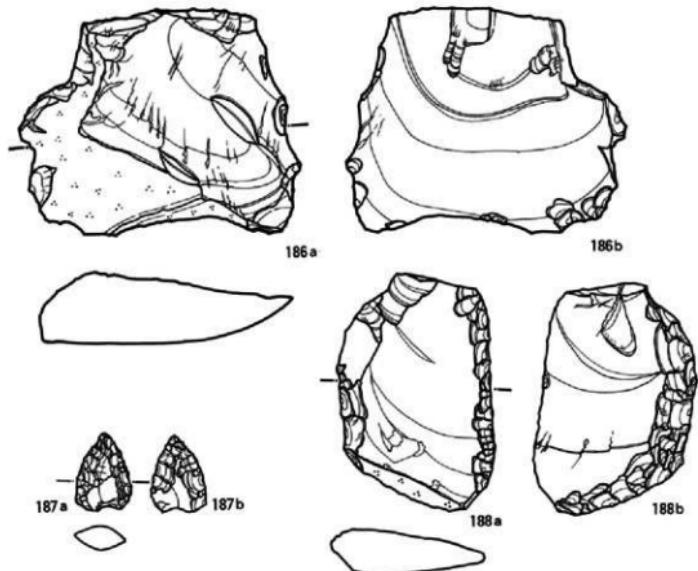
184



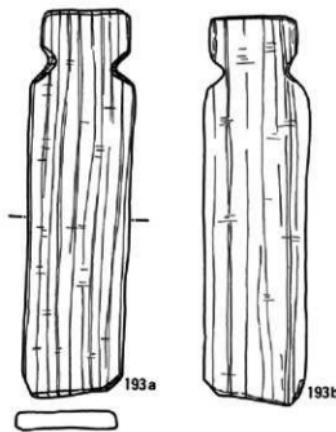
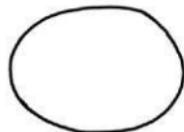
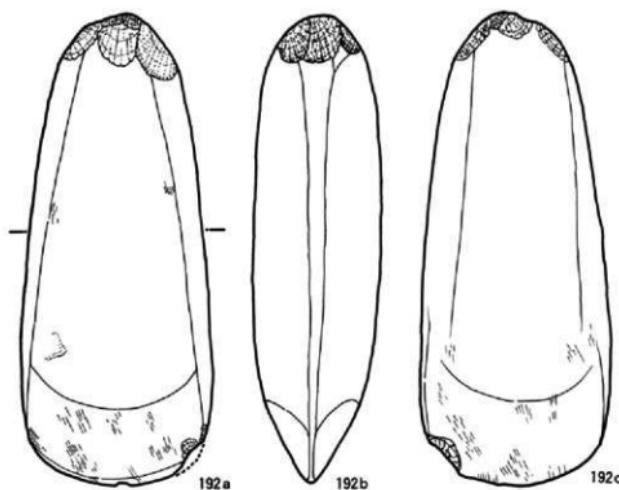
185

0 2 4 6 8 10 12 14 16 18 20cm

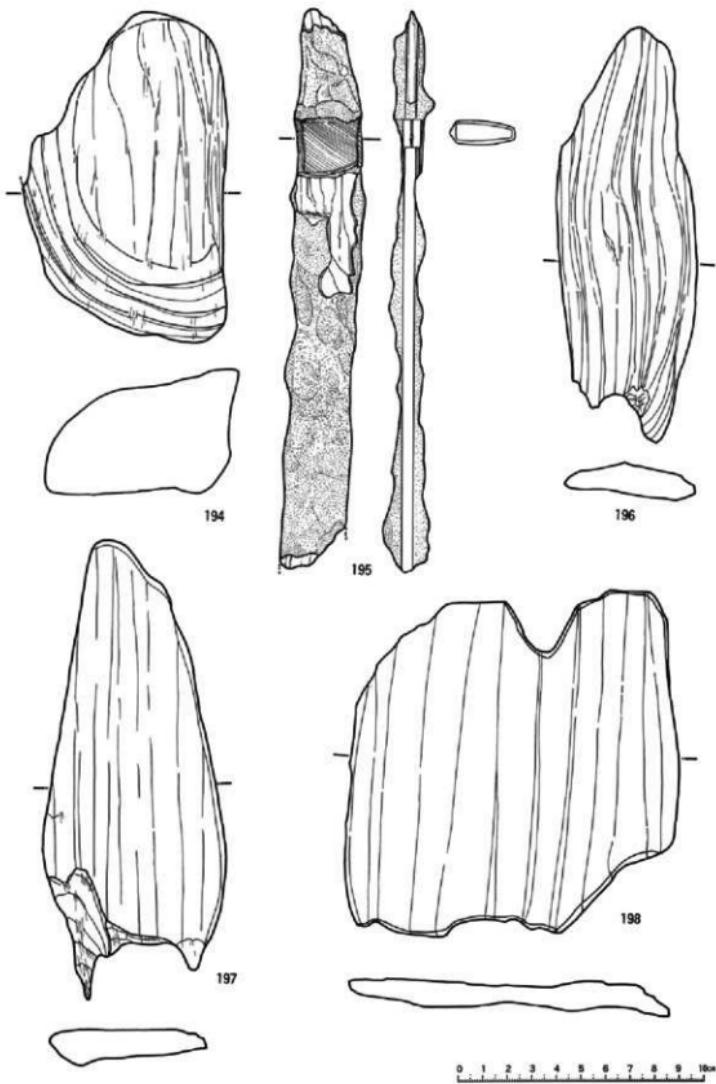
第34図 大浦A・大浦C遺跡出土の遺物(19)



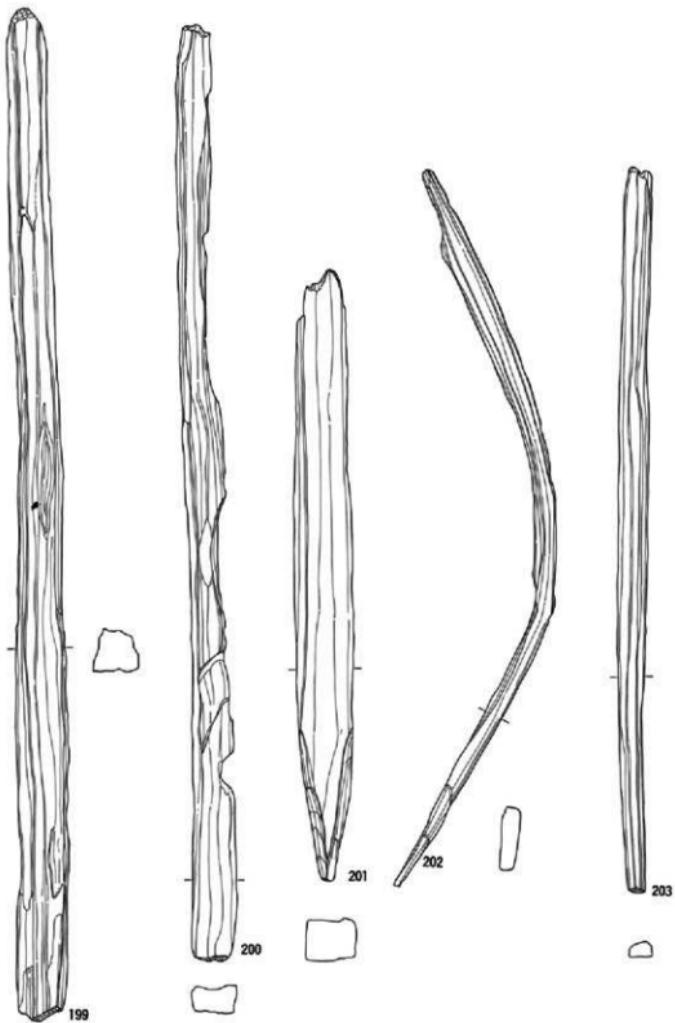
第35図 大浦A・大浦C遺跡出土の遺物(20)



第36図 大浦A・大浦C遺跡出土の遺物(21)



第37図 大浦A・大浦C遺跡出土の遺物(22)



第38図 大浦A・大浦C遺跡出土の遺物(23)

0 2 4 6 8 10 12 14 16 18 20cm

図 版

第一回版 大浦C遺跡の発掘（1）



発掘全景



発掘状況

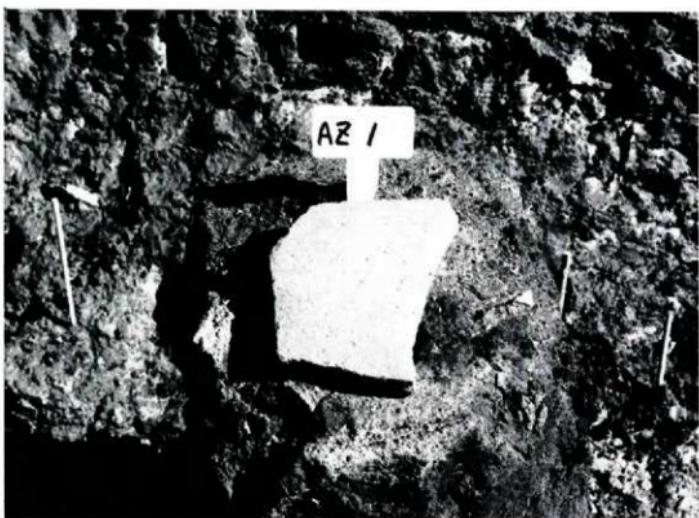
第二四版 大浦C遺跡の発掘(2)



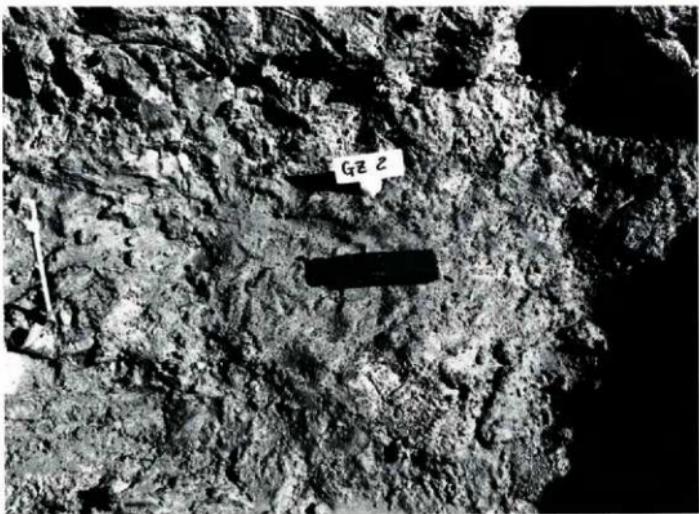
KY1・2A区セクション



KY1B区セクション



AZ 1 布目瓦出土状況 (KY 2)



GZ 2 木簡出土状況 (KY 1)



GZ 4 木器出土状況 (KY1)



GZ 5 木器出土状況 (KY1)

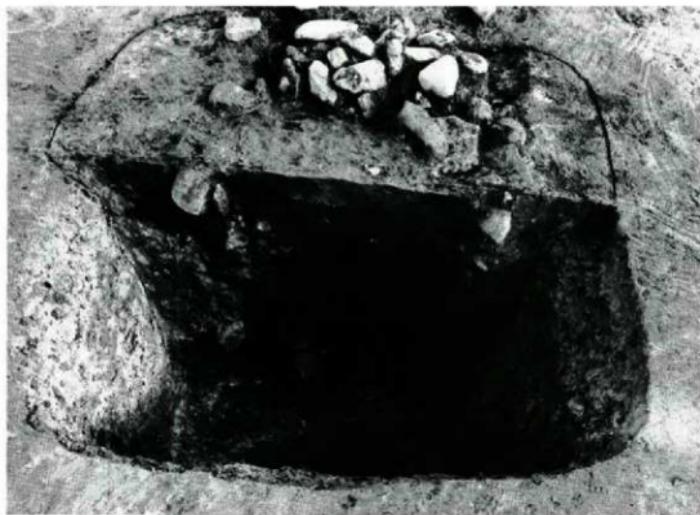


発掘全景



遺構全景

第六図版 大浦A遺跡の発掘（2）



DN 9井戸跡セクション



DN 9井戸跡完掘状況

第七四版 大溝A・大溝C遺跡出土の遺物（一）



1



22

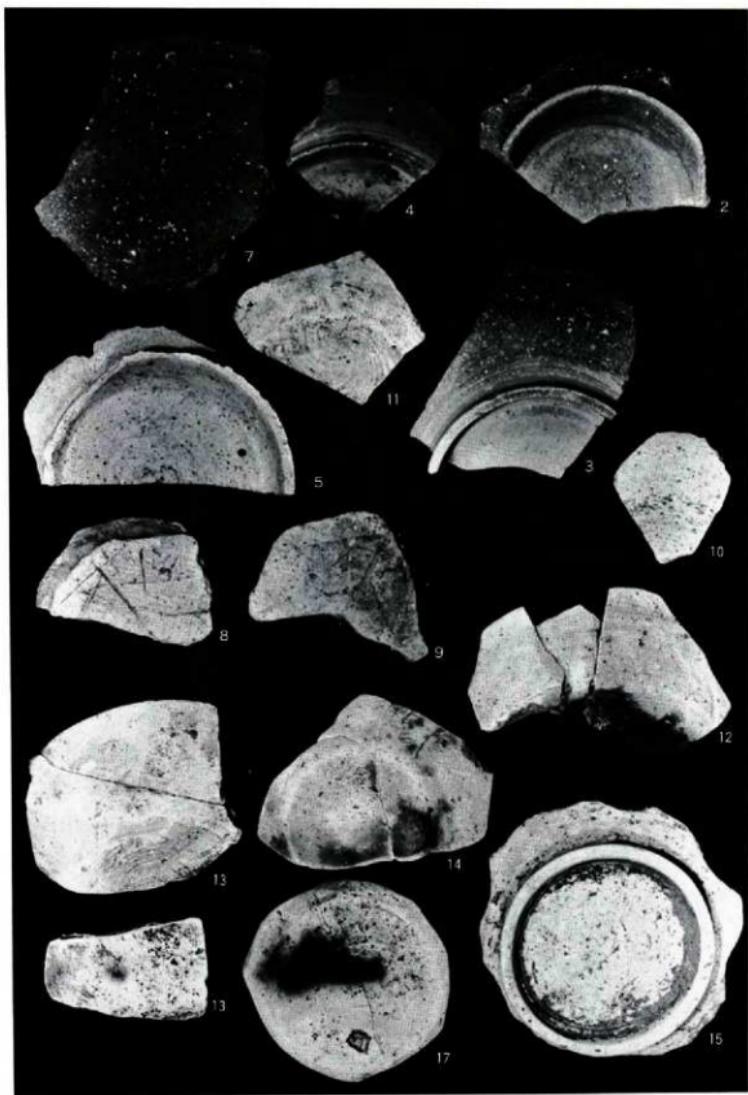


23

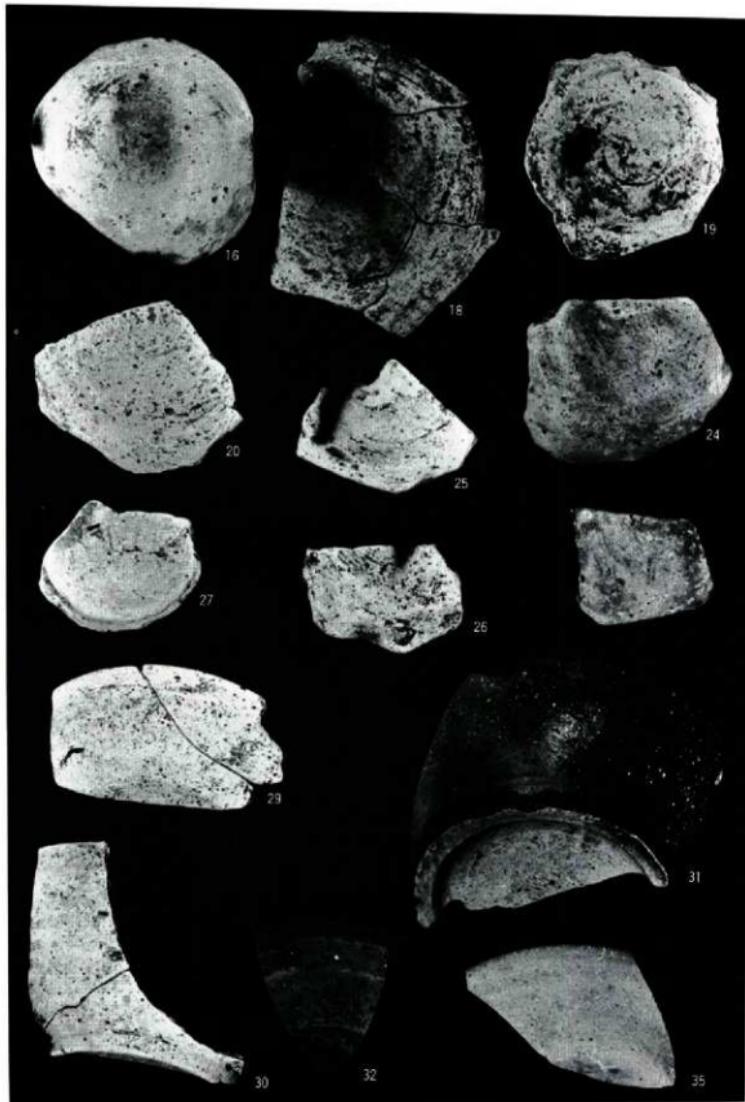


28

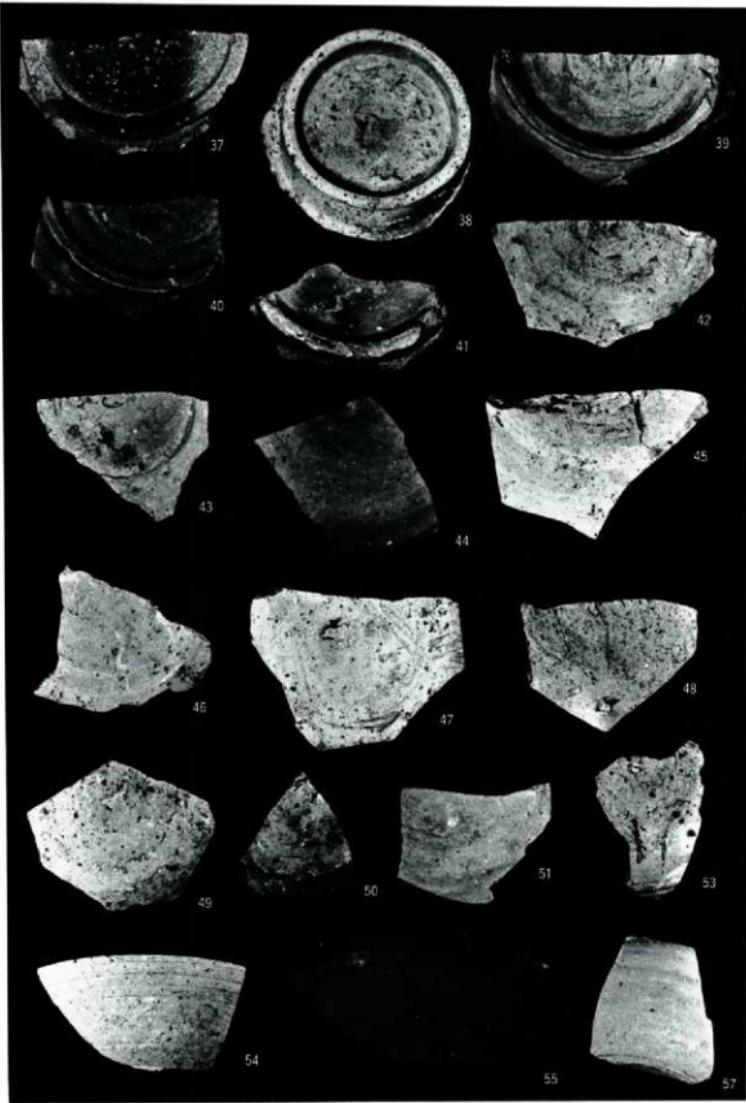
第八図版 大浦A・大浦C遺跡出土の遺物(2)

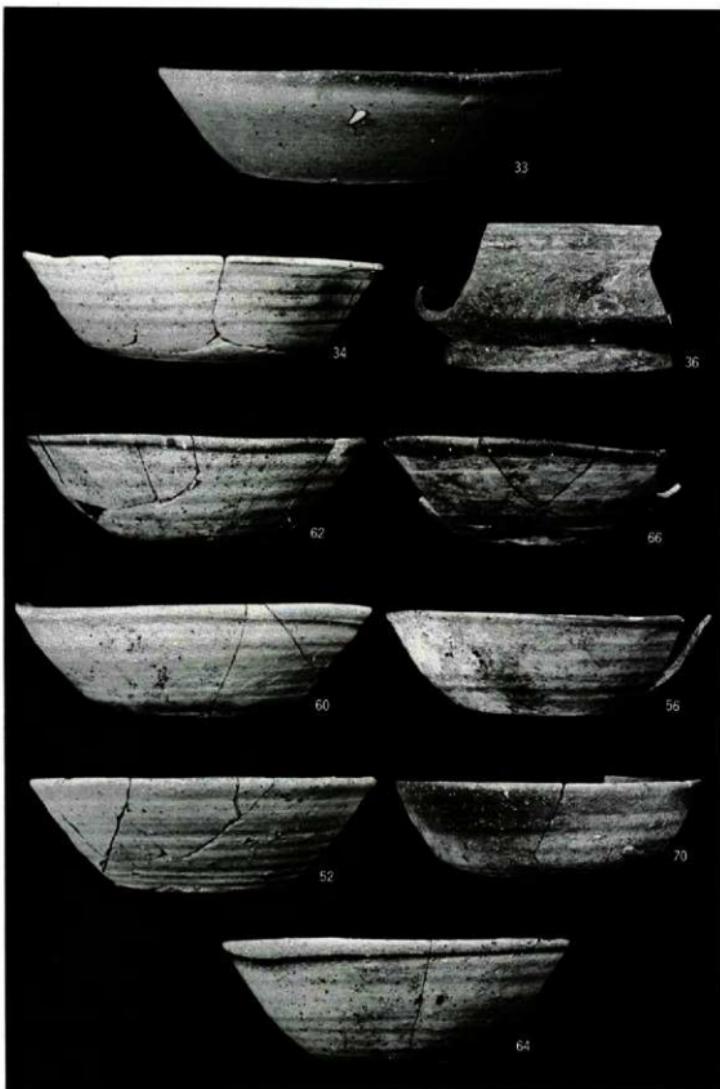


第九図版 大浦A・大浦C遺跡出土の遺物(3)

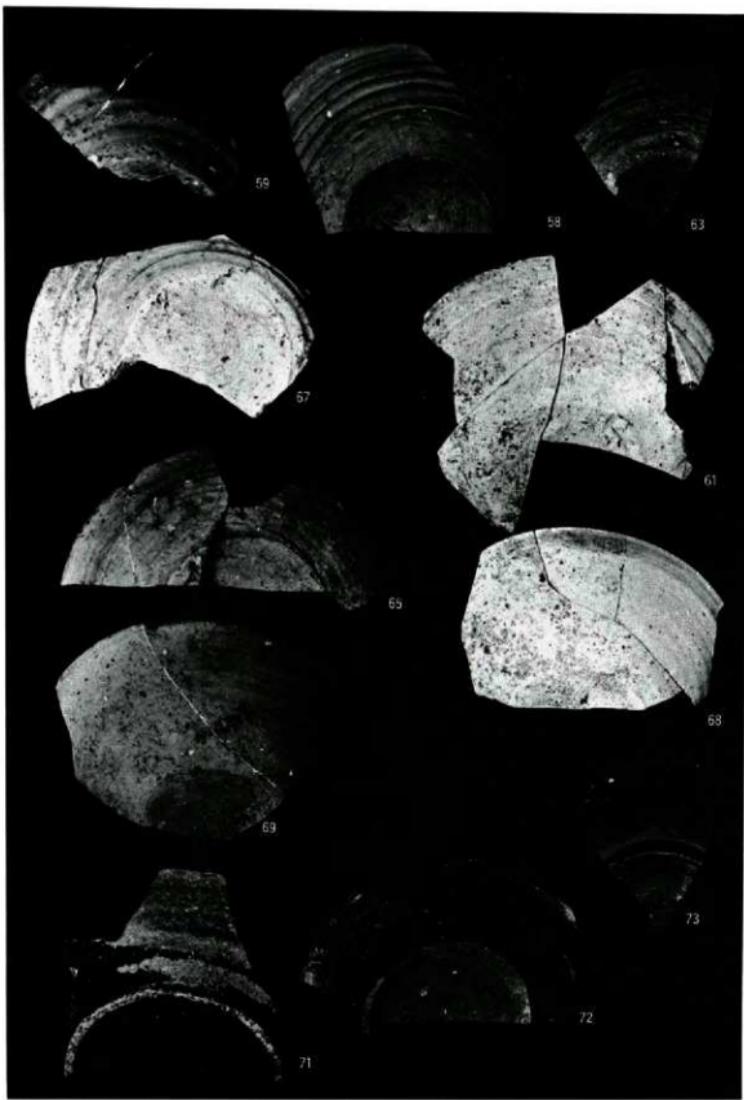


第十図版 大浦A・大浦C遺跡出土の遺物(4)

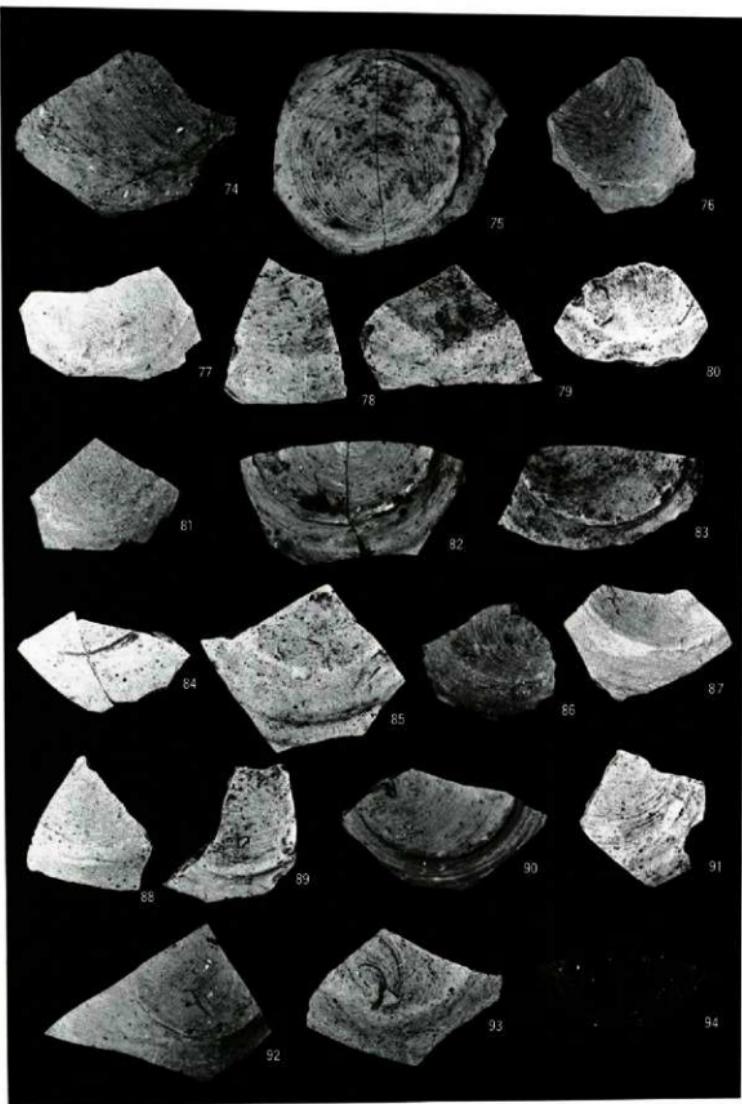




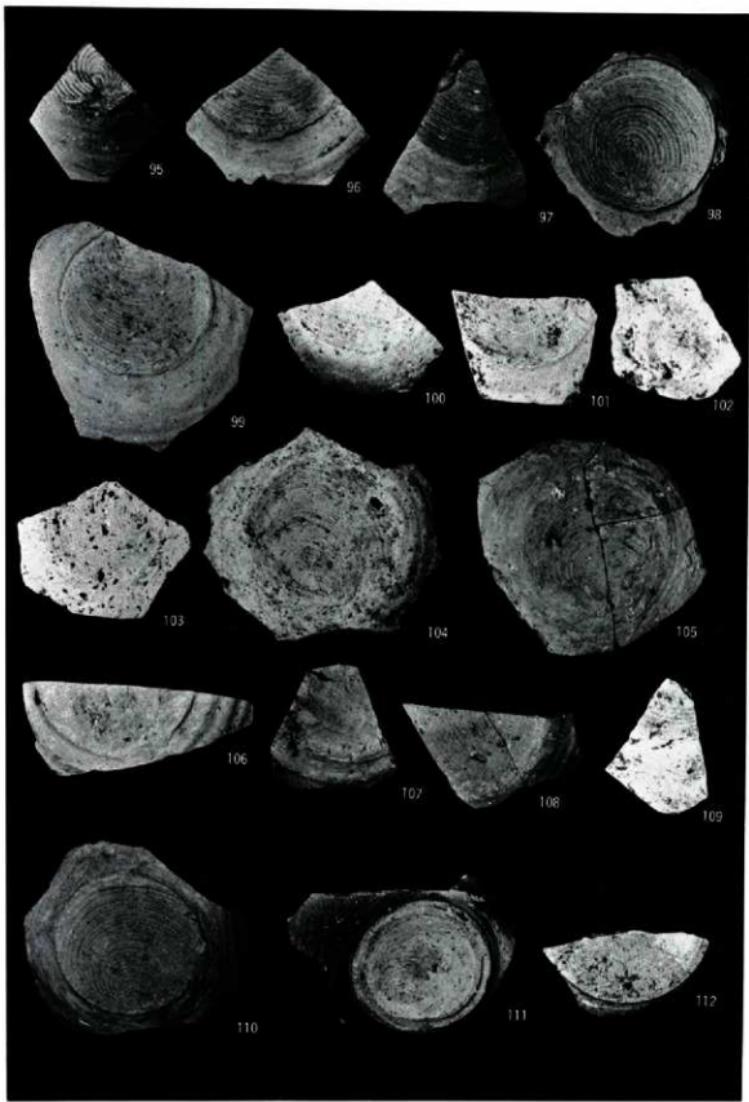
第十二図版 大浦A・大浦C遺跡出土の遺物（6）



第十三図版 大浦A・大浦C遺跡出土の遺物(7)

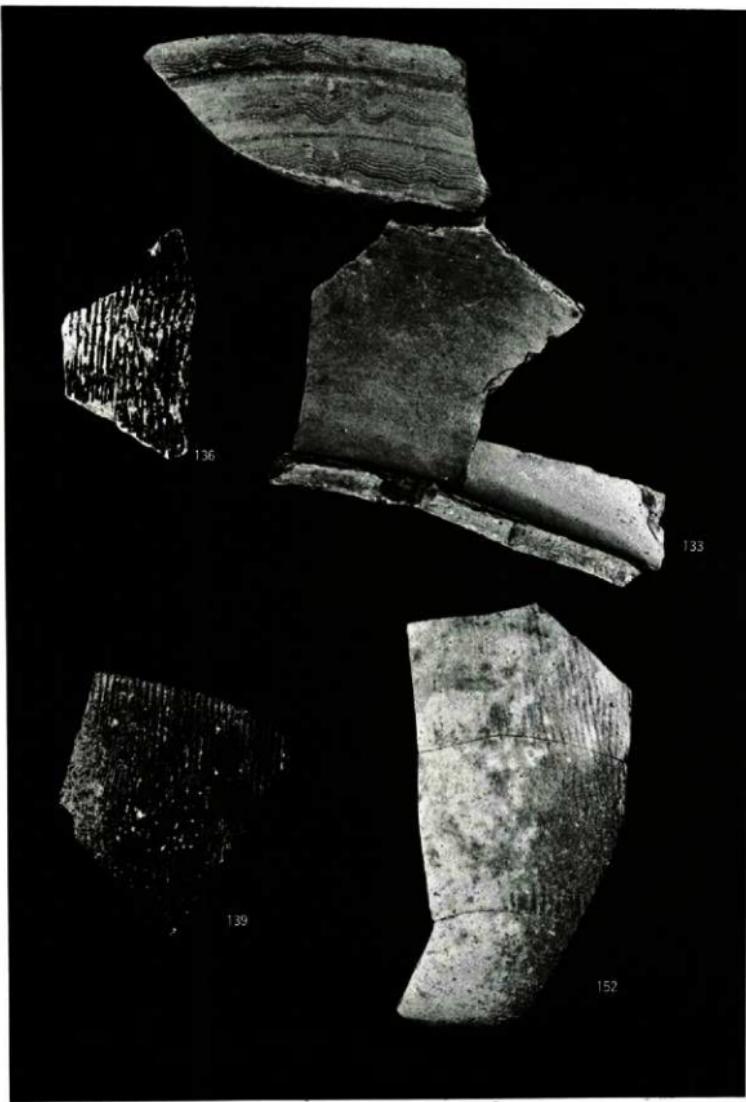


第十四図版 大浦A・大浦C遺跡出土の遺物 (8)

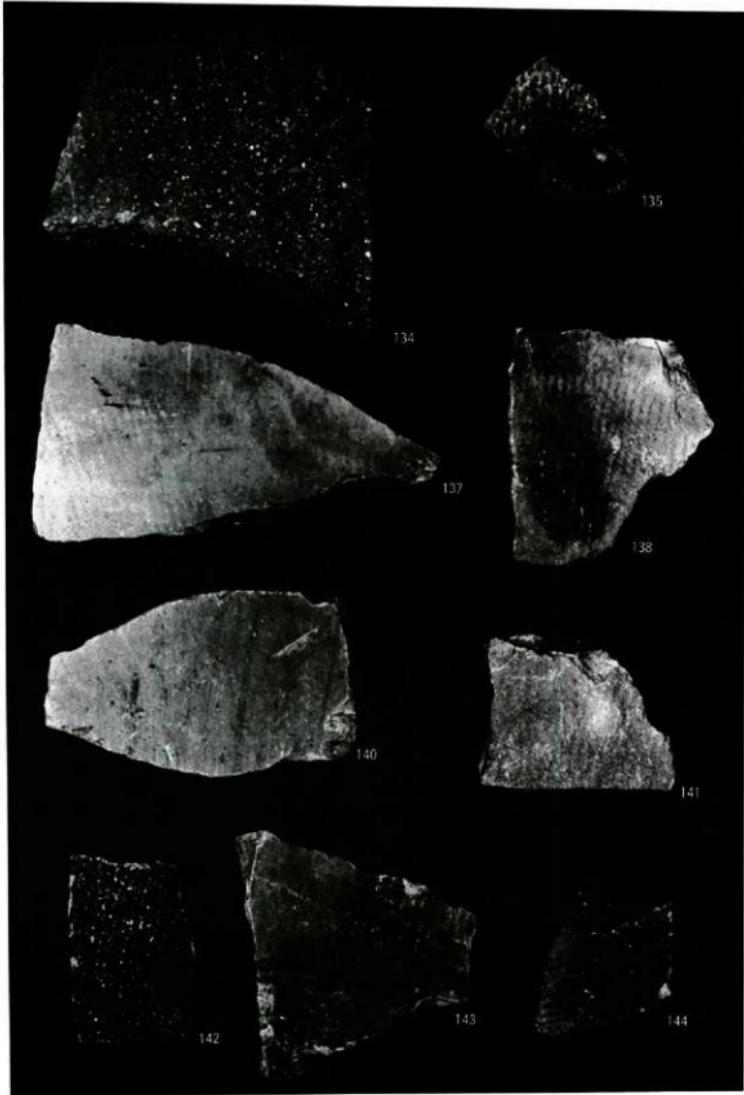




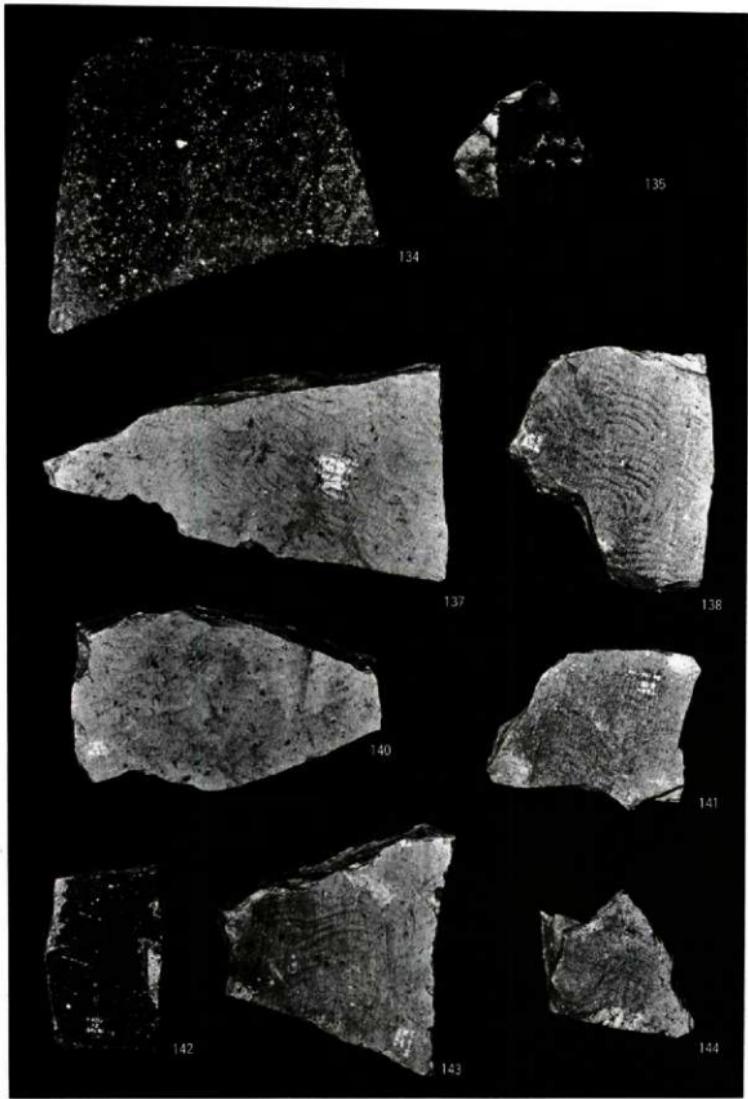
第十六圖版 大浦A・大浦C遺跡出土の遺物 (10)



第十七図版
大浦A・大浦C遺跡出土の遺物(1)



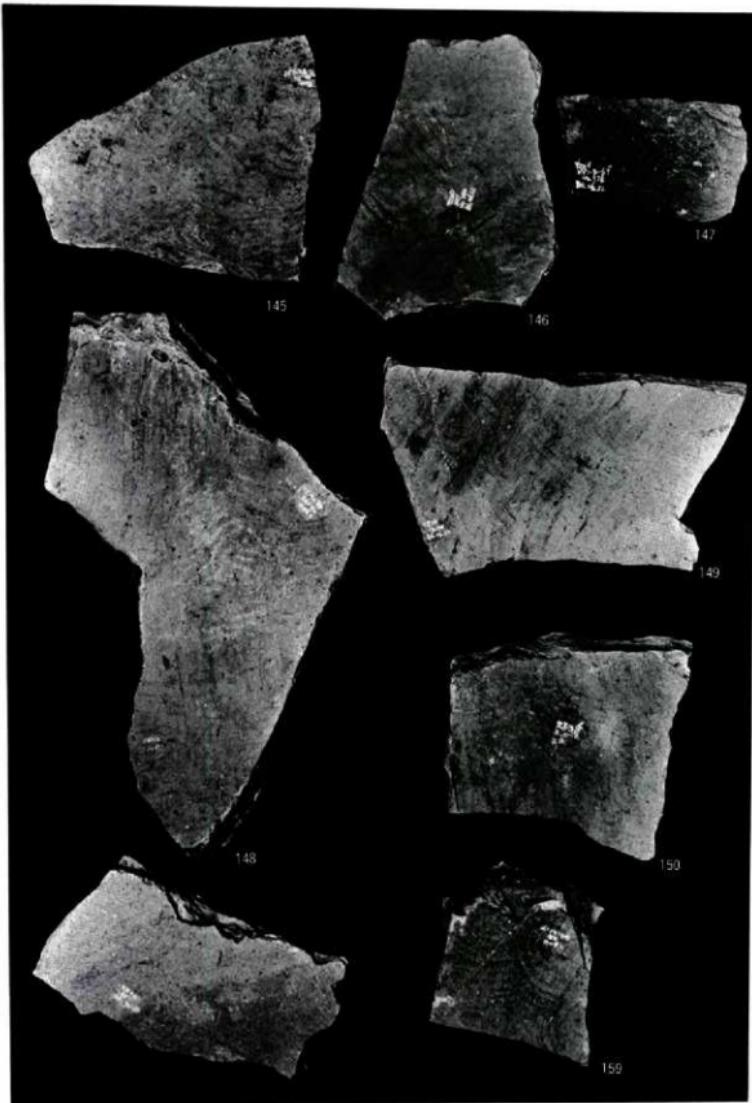
第十八図版 大浦A・大浦C遺跡出土の遺物(12)



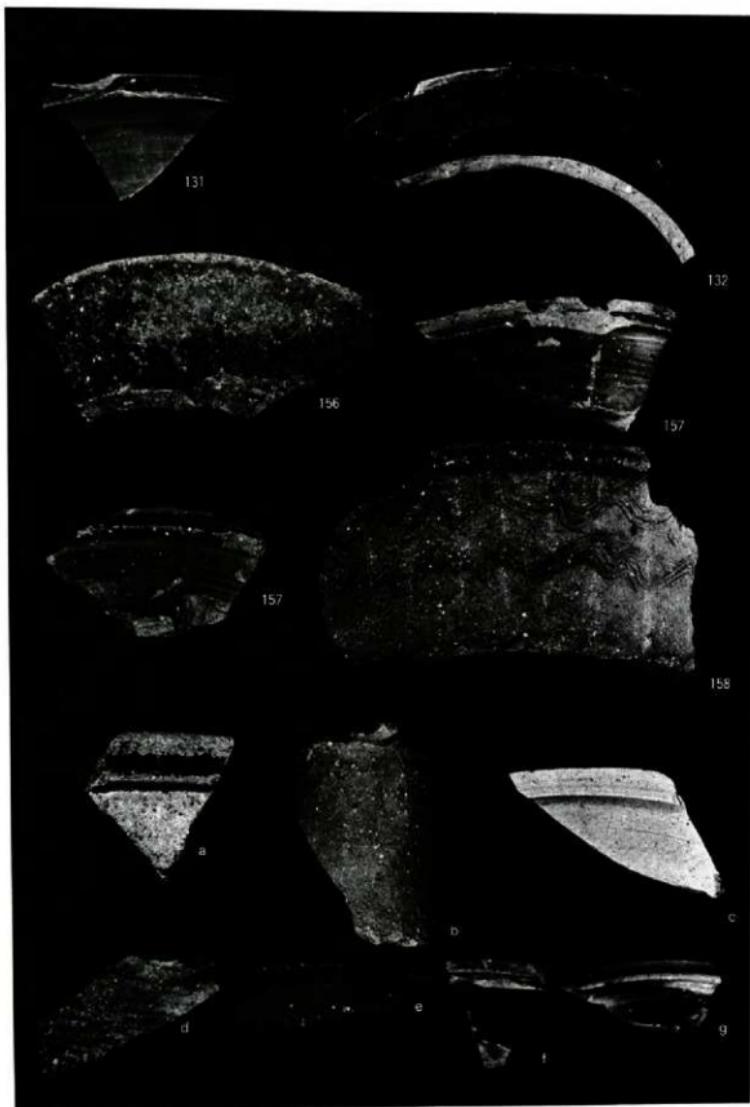
第十九図版 大浦A・大浦C遺跡出土の遺物 (13)



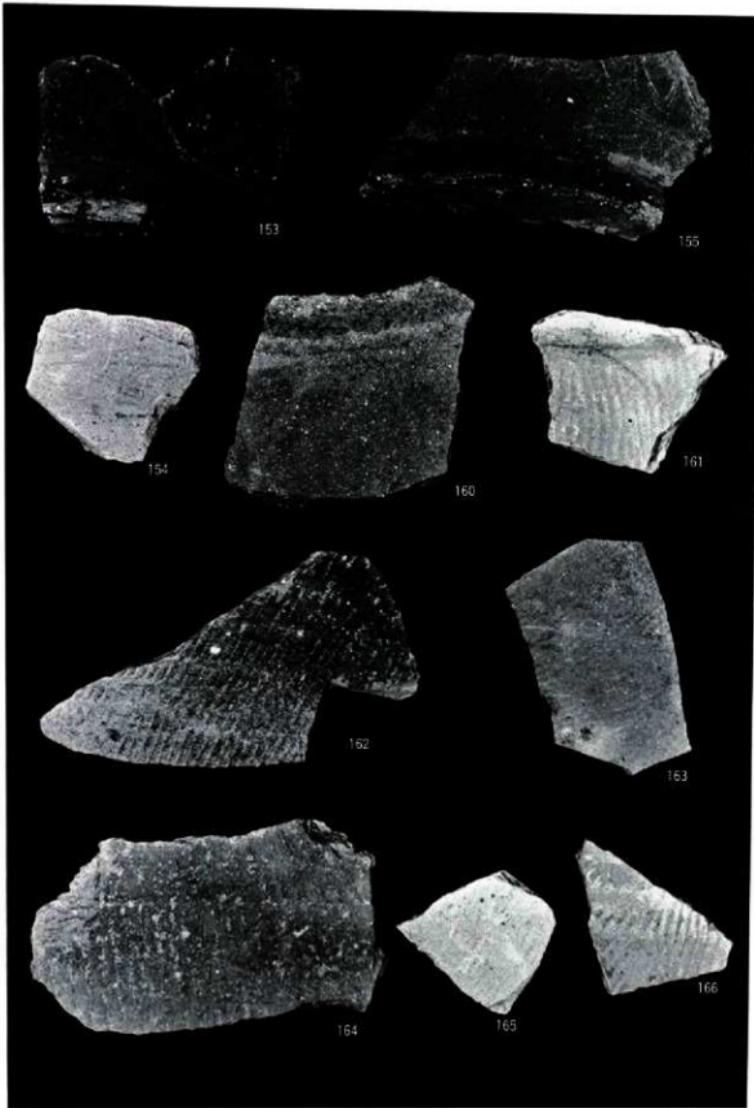
第二十圖版 大浦A・大浦C遺跡出土の遺物 (14)



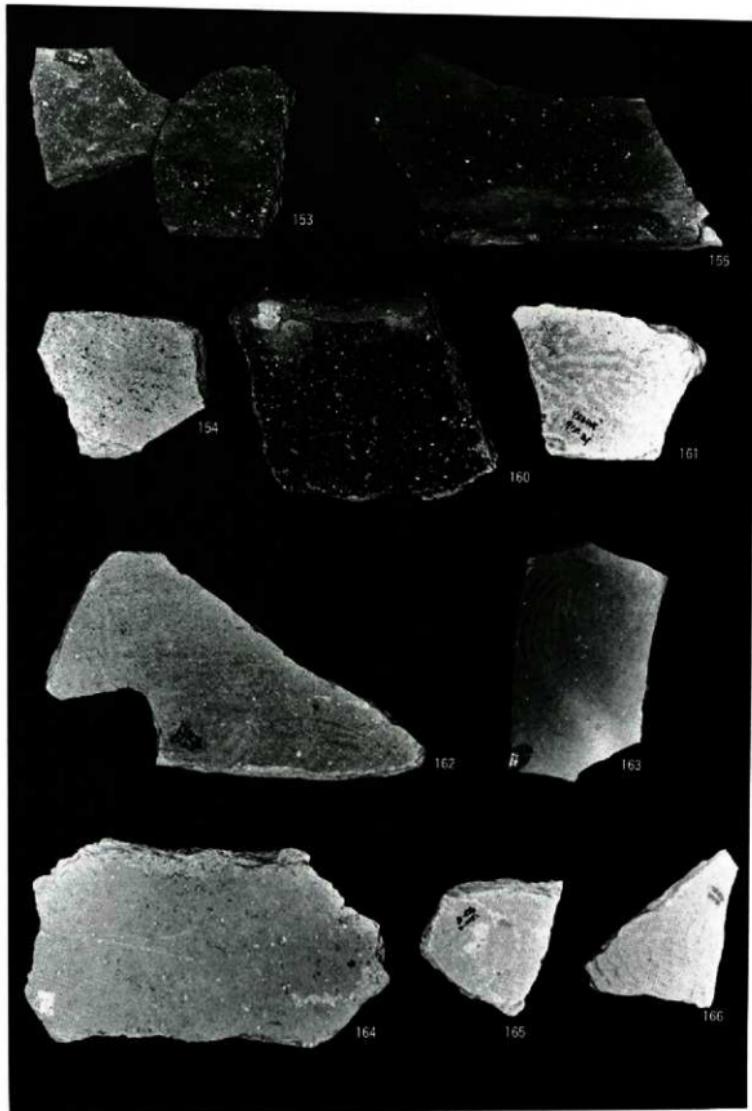
第二十一図版 大浦A・大浦C遺跡出土の遺物 (15)



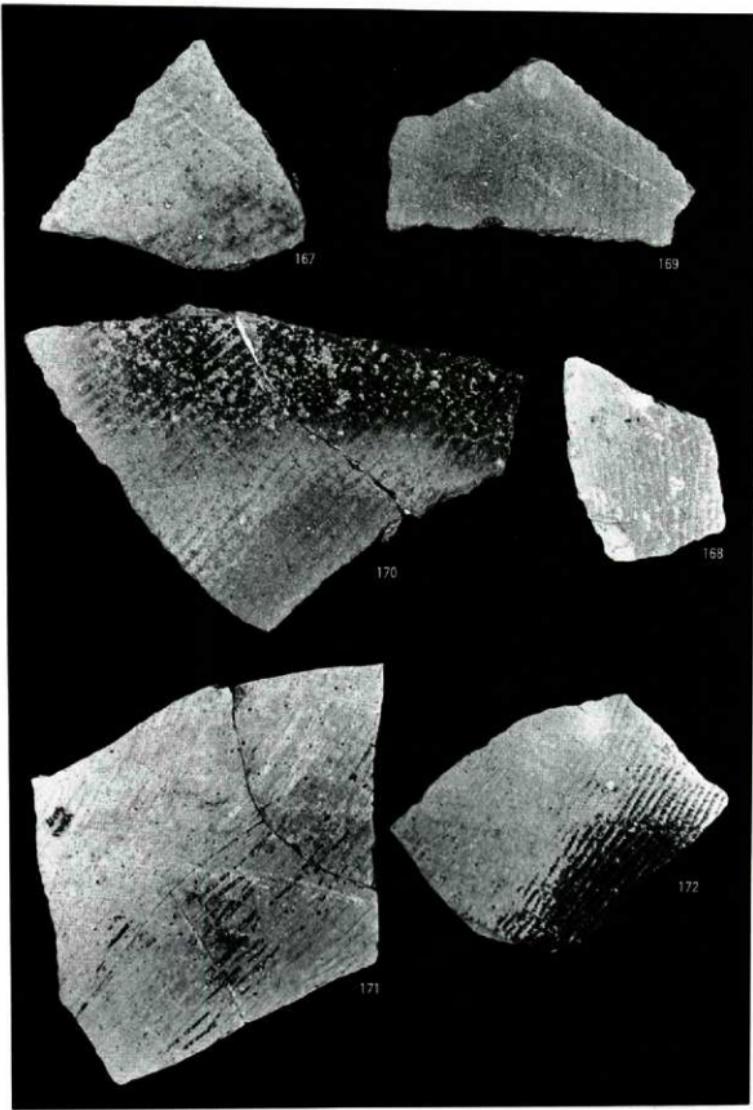
第二十二図版
大浦A・大浦C遺跡出土の遺物
(16)



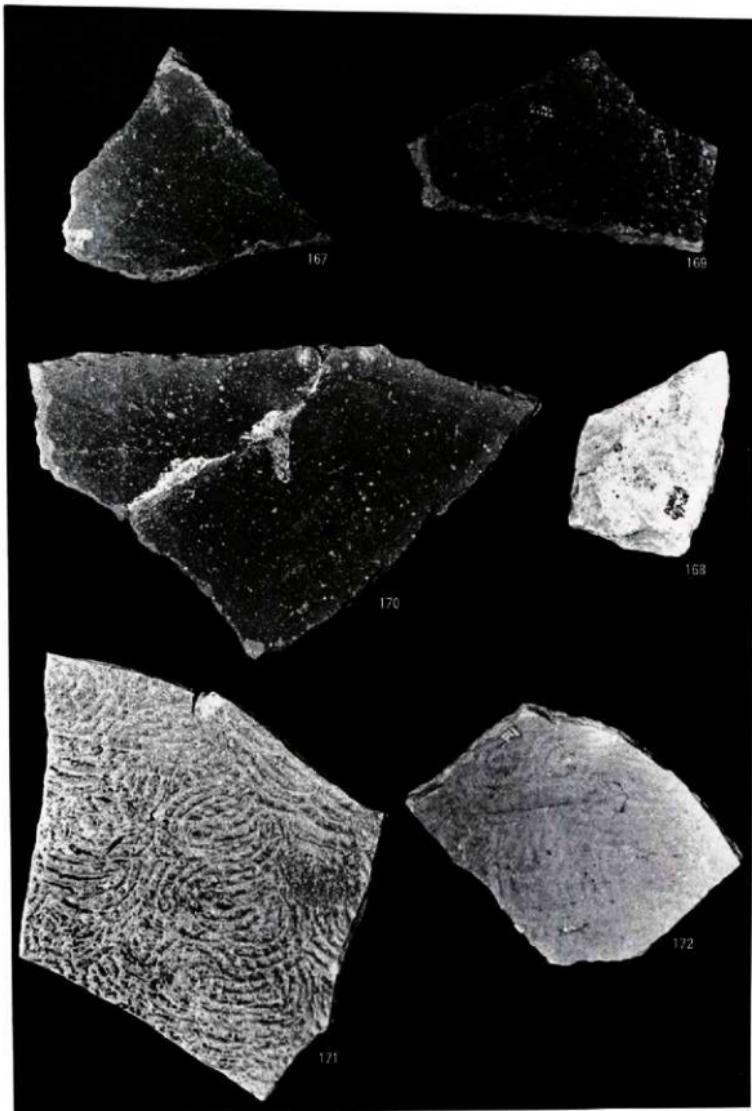
第二十三図版 大浦A・大浦C遺跡出土の遺物 (17)



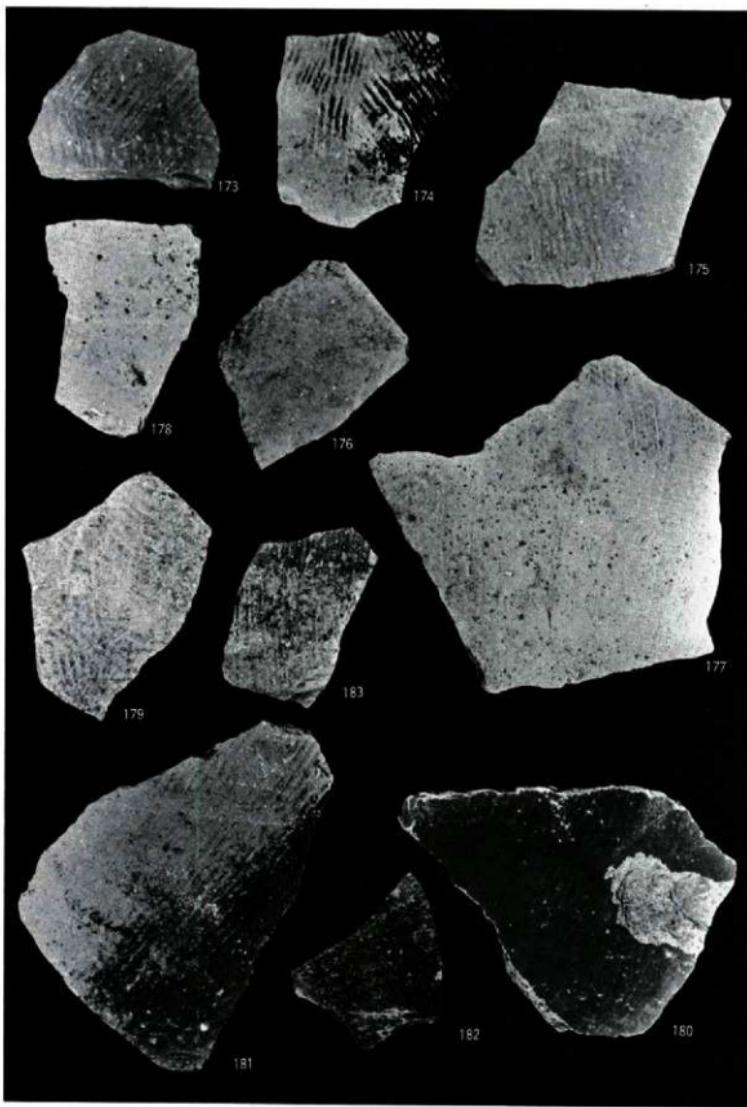
第二十四図版 大浦A・大浦C遺跡出土の遺物 (18)



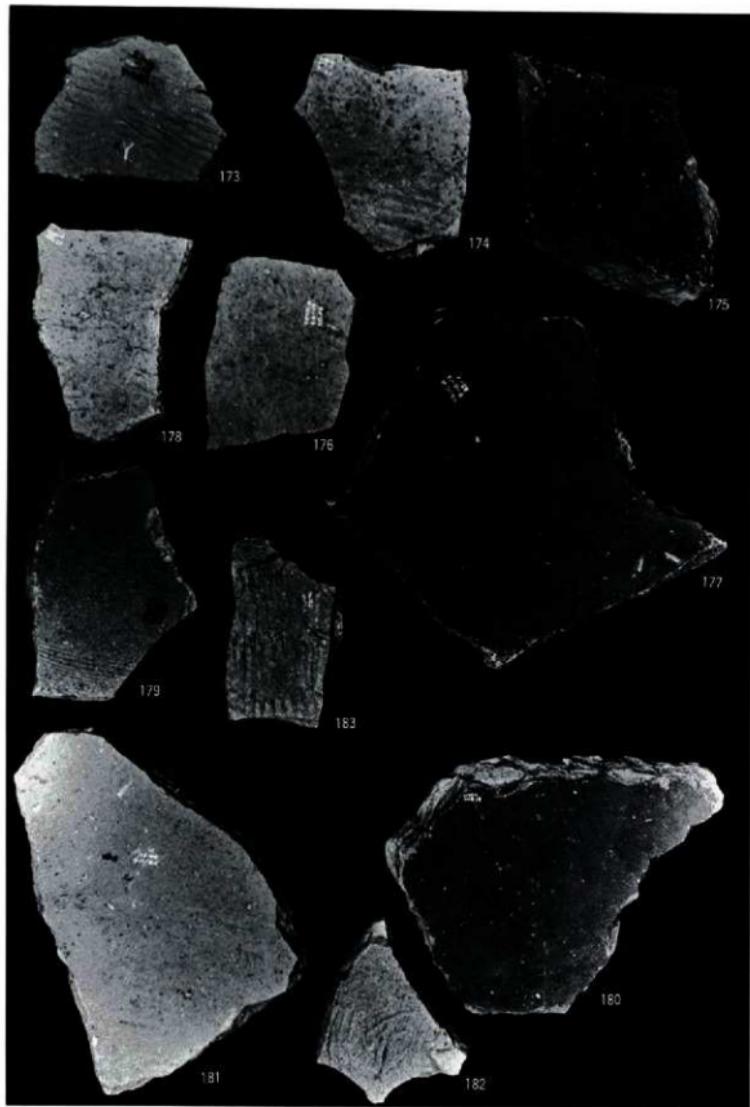
第二十五図版 大浦A・大浦C遺跡出土の遺物 (19)



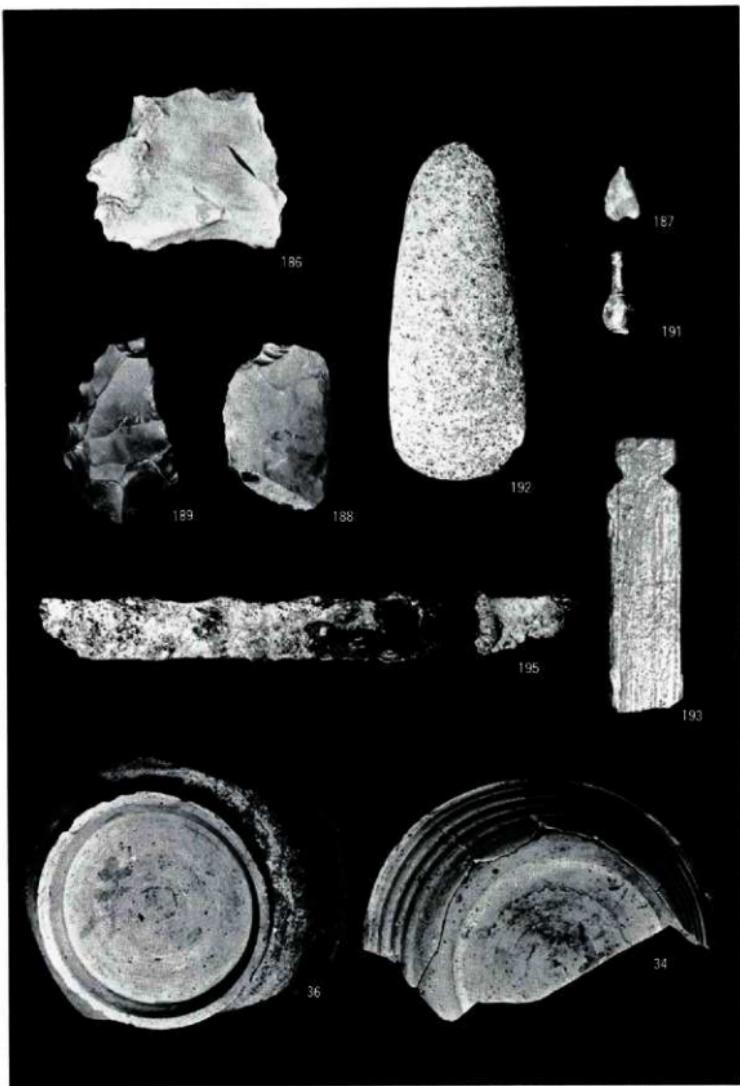
第二十六図版 大浦A・大浦C遺跡出土の遺物 (20)



第二十七図版 大浦A・大浦C遺跡出土の遺物 (2)



第二十八図版 大浦A・大浦C遺跡出土の遺物 (22)



米沢市埋蔵文化財調査報告書第18集

大 浦

大浦A遺跡発掘調査報告書 大浦C遺跡発掘調査報告書

昭和62年2月2日 印刷

昭和62年2月28日 発行

発行 米沢市教育委員会
米沢市金池3-1-14
TEL 21-6111

印刷 羽陽印刷
米沢市中央3-9-22
TEL 23-0467

